

# 「能仁新報」よりみた名古屋の仏教（三）

——明治二十五年一月～明治二十五年十二月——

川 口 高 風

## 凡 例

一、本稿は「能仁新報」に掲載されている現在の名古屋市内にあたる地域の仏教関係の記事を採録した。「能仁新報」（名古屋朝日町五十六番戸 能仁社発行）の原本は東京大学法学部の明治新聞雑誌文庫に所蔵するものを使用した。同文庫には明治二十三年五月十二日発行の第一号より明治三十三年六月二十五日発行の第六四九号まで所蔵するが、明治二十四年六月八日（第五十七号）、六月十五日（第五十八号）、同二十七年九月七日（第三三三号）から同二十八年七月三十日（第三七〇号）、同二十九年十一月十六日（第四三八号）から同三十一年八月三十日（第五五五号）までの発行号数は欠本となっているため、その間の記事はない。

一、第三回は「能仁新報」第八十七号（明治二十五年一月六日）より第一三八号（明治二十五年十二月二十六日）までから採録した。

一、翻刻にあたり仮名使いは原文のままとし、旧漢字は新漢字に、変体仮名はすべて平仮名に改め句読点を付した。なお、記事に付してある漢字のルビは削除し、明らかな誤植は訂正した。

一、記事は掲載年月日順に配列したが、記事中に「当市」とあるのは名古屋市のことである。

### 開明新報社の直接救恤〔明治25年1月6日 第八十七号〕

全社特派員神代洞通、佐藤某の二氏は、全社に於て募集されし震災被害者救恤の義捐金を携へ、過る廿八日来名せられ、愛知仏教会救恤事務所へ救恤方打合せしにより、全事務所は直に之に応じ、全日は当市公立病院及び好生館の負傷者を案内し両所共に患者の病状に就き親しく慰問せられ、両所の患者五十余名へ金廿錢宛、亦看護婦廿余名へ金十錢宛を恵与して、縷々全国慈善家諸氏が全社義捐を送られたる旨趣を述べ、亦廿九日には東西枇杷島町及新川町三役場管内の災民四百余名へ、金五錢宛を枇杷島川の河原に幕を張り施与場を設け、六根色の仏旗を翻し受救者を数回に分ち、特派員神代氏及社員水野等交々説話を成して恵与され、又午後三時より熱田町亀井山に於て一行は一百五十名前全様の金額を配与され、翌廿日には当市西別院に於て、当市災民八百名へ同断の配与をされしに付、同日は社員広間隆円氏法話を成し、社員伊藤、河村配与方に助力したり。

### 江崎接航師の義挙〔明治25年1月6日 第八十七号〕

同師は此頃、本県下旧知の寺院にて震災に係りたる向二十余ヶ寺へ、見舞として金五十錢宛を贈呈せられ、其配付方を本社へ托せられ、本社は夫々配付せしが何れも同師の厚意を感謝せられたり。

### 笠間竜跳師逝く〔明治25年1月6日 第八十七号〕

本紙にも屢々記せし如く、同師の病状は逐々重体となり、遂に客冬廿八日病没されしを以て、一昨四日其の葬儀を執行せられし該略を記さば、同日午前十一時より市内外寺院五十余ヶ寺及び大須、七ツ寺、極楽寺、性高院、光円寺、淨敬寺等を始め社員目下部、河村、伊藤、中村も参列せしに、導師は三導師にて万松寺之れが主となり、同寺信徒檀徒以下無量五六百名の会葬なりしが、笈瀬川の火葬場に於て荼毘せられしが、愛知仏教会より大生花一對。本社及び紹隆会よりも同一対宛を献し、其他供物霊前に満ち、霊柩の先きには六金色の仏旗を立て、静肅たる葬儀は流石に大和尚の葬儀と見受けられたり。因に記す。同師は久しく仏教会の講師となり、或は紹隆会の講師、其の他宗学の大斗として中国に名高かりしが、惜むべし五十六才を一期として逝去されしを、尚本日は右初七日の法要を務めらるゝに付、白鳥鼎三師は其の導師を勤めらるゝ由にて、孰れも社員等は招待を受けたり。又同師の事に付ては更に記載する所あるべし。

### 愛知県下仏教者の会合〔明治25年1月11日 第八十八号〕

昨十日午前十一時より当市矢場町白林寺に於て催されし同会合の景況は、先づ同寺の門前に「本県各団体懇話会場」と大書したる大標札を掲げ、六根色の仏旗を翻し玄関に於て来賓の徽章（梅花形に懇話会と認む）及び呈茶牌を渡し、呈茶室にて抹茶を饗せられ、会場には夫々申込者の順序に依じて其の姓名を大書したる丁

寧なる貼札あり。来会者の席定るや配膳の上、会主総代として水野道秀氏開会の主意を述べられしが、大要は将来仏教者の運動は統一に出でざれば各団体共に不利益たるのみならず。我が仏教の勢力を欠き、不幸之れより仏なるはなし云々と述べられ、続けて各々胸襟を開きて献酬懇談一同十二分の歡を尽され散会されしは午後五時頃なりしが、尚ほ詳細なる事は次号に報ずべし。

### 仏教会の救恤〔明治25年1月11日 第八十八号〕

去る九日、同会にては水野道秀氏の一行を愛知郡柳原村へ出張せしめられ、予て同役場へ打ち合せ置かれし受救人員を同村曹洞宗禅養寺へ集め、午前十時より一場の法話を為し六十余名に施米されしに付、助役坪井仲藏氏は幹施の勞を取られし由。又引き続き同郡岩塚村に至り村長と協議し、同村光明寺内へ災民六十余名を集め、是亦一場の法話をなされしに、同寺住職等も尽力されしと。因に記す。同村は頗る震災甚しかりしと見え、今に仮屋なる多かりしと。次に御厨村に至り、同村なる小学校内に於て、是亦法話の上七十五名へ施米し、同村竜潭寺住職等尽力されしと。尚同村なる西垣伊助氏は曹洞宗の篤信家にして、曾て久我環溪氏に就て剃度を受けられし事ありしが、去八九の両日は高祖大師の六百五十年忌を修せられ、当市より野々部至遊師を請せられし折なれば、右の一行へも晚餐を饗せられしに付、水野氏は一場の法話を為されし由。又同会より伊藤寛典氏も丹羽郡、犬山、高雄村、柏森村、東春日井境村等へ派出、災民を救助されし顛末は次号に

掲げん。

### 政秀寺本堂の再建〔明治25年1月11日 第八十八号〕

曾て能仁に、震災の為堂宇壊倒の図を掲げし当市矢場の政秀寺は其の由緒も深き寺院なるが、今回再建の為同寺檀徒なる橘学校々長大田寛氏始め諸氏協議の上、同寺の来歴を印刷して淨財勸募寺宇再建に着手せられたるが、其の大略は左の如し。

後奈良天皇天文廿二年癸丑閏正月十三日、平手中務大輔政秀君か織田右府の素行修まらざるを憂ひ、数々諫むれとも用ひられず。終に其領地尾張国春日井郡志賀村に於て自殺せられたるを以て、右府愁嘆の余為めに一字を全郡小木村に建立せられ、沢彦和尚（勅諡円通無礙禅師）を請して開基とせり。後三十二年を経て兵燹に罹り烏有に属す。時に天正十二なり。翌十三年寺を清洲に再建す。二世雪巖宗赫禅師の代文禄四年八月、豊太閤より寺領二百五十九石を賜ふ。後慶長六年薩摩守徳川忠吉公各寺領を改正せらるゝに当り、中島郡下津村に於て百石を賜ふ。三世槐山和尚の代慶長十五年庚戌を以て、名古屋現在地に移す。後十七年を経て旧藩祖徳川義直公より瑞雲山の号を賜ひ、百石を継賜せられ、寛文七年二月二代光友公より百石を加賜せられ、貞松院殿（光友公の御継母）普峯院殿（光友公の御異母妹）を埋葬し、二靈暨ひ祥光院殿（広幡公即ち普峯院殿の御良耦）の尊牌を安置せらる。今に至るまで法脈連綿として断ゆることなし。

### 仏教会の救恤〔明治25年1月18日 第八十九号〕

前号に記載せし、同会の救恤に出張されし伊藤寛典氏の一行は、去る七日午後二時東春日井郡杉村心入寺に於て法会を修し、災民一同へ法話を為し施米を救恤し、翌四日は各宗同盟会本部に至り、村田大音氏に面会し種々協義の末零時三十分より丹羽郡高雄村白雲寺に到り、災民を集めて前日同様法話を為し、施米を終るや同寺の老僧は一行を接待せられ、続て犬山町徳授寺に到り住職桜井寛宗氏の周旋にて施米されしが、同地巡查鈴木某氏も尽力せられしか桜井氏は更に金一円五十銭を義捐され、且派出の一行を厚待せられし由。又一行は高雄村に至り、安穩寺に止宿せられしは午後十一時なりしと。翌九日は柏森村に至り村役場にて救恤を為すべき筈なりしも、降雪の為災民を招集ずる事を得ず。因て救恤方を役場員に托されし等、当日は安穩寺住職丹羽治道氏は頗る尽力せられし由。続て一行は和多里村に至り、正眼寺を訪ひ同寺の案内にて役場に至り、災民を円通寺に招き役場員と共に一行は法話を為し、他は役場員に托して同日八時十五分愛知仏教会へ復命されし由。以上救恤の間は寒気殊の外甚だしく、一行は雪を冒し肌を凍して救助に尽力されしには至る所、孰れも感佩せし由。

### 仏教会の救恤〔明治25年1月25日 第九十号〕

去る十八日、愛知郡笈瀬村役場に於て、鈴木助役の尽力にて災民一百余名へ法話の後施米され、終て若干の金員を施与され、次て同郡織豊村字中村の薬師堂にて施米の筈なりしも、折悪敷堂守不

在の為西光寺に於て住職加藤広願氏及び役場員立合の上施与方を依頼し、更に日比津村々役場に至り救恤金を托し、尚常德寺住職坂倉日朝氏法話をも依頼し、更に鷹場村字栄の菊泉寺に到、朴我碩鼎氏及び役場員と共に施与方を依頼し、翌十九日は金城村に到り、村長大失長蔵氏に救恤法を嘱托されしか、同氏は何れの金員も救恤とあれば丁重に其恩誼の程を謝せらるへからされとも、殊に仏教者の義捐とあれば尚一層なりと物語られ、其他到る所村民の喜悦は言語に尽し難かりしと。派出員伊藤寛典氏は以上の報告と其の次第を愛知仏教会へ報告せられし由。

### 社員水野の出発〔明治25年1月25日 第九十号〕

社員水野道秀は去廿日に当地出発、別項の如く江崎接航師招請の為対馬国へ赴くべき処、俄かに発足致し難き事件の生せし為、愈一昨廿三日熱田発の汽車にて神戸へ向け出発せしに付、当大光院の檀方惣代を始め内海の円通寺、当市の陽春院、東連寺、山田正道の諸氏は汽船迄見送られしと云。

### 故大光院主笠間竜跳師の略歴〔明治25年1月25日 第九十号〕

師は天保二年七月を以て名古屋市車道町に生る。父を笠間周右衛門と称し、旧尾藩士なり。弘化二年十二月五日伊勢国桑名郡曹洞宗常在院住職完竜和尚に就き得度す。後諸国を行脚して、出雲国松江城清光院の呑海和尚に随従する事数年、安政四年の夏、同寺常恒会に参禅、文久四年当国海東郡禅昌寺に住職し、明治五年九

月教導職試補に任せられ、同六年三月廿八日少講義となり、同八年十二月廿五日権中講義に進み、同九年二月廿三日、大薩和尚の推撰に依り大光院の住職となり、十年九月廿日中講義となり、愛知県教導取締となる。同四年権大講義となり、同年二月久我前管長に随伴して北陸道を巡回し、同六年二月廿七日大講義となり、十七年一月照心会の会長に推され、十八年に紹隆会の講師となり、同年四月久我管長の茶毘式係を命ぜられる。廿年六月三日義捐金を寄付せし賞として木盃の下賜あり。廿一年九月四日派出講師となり、廿二年三月廿六日愛知県総教会副長となり、同年五月十四日愛知県育児院の監督となり、同年十二月愛知仏教会の講師となり、同年愛知県曹洞宗代議士として大会議に列す。廿三年一月京都府下及び滋賀県の巡回を命ぜられ、廿四年二月六日宗制編纂委員長となり、同年七月疾病を得て其の職を辞す。然れ共尚病を力めて内海、名和村の江湖会に臨み、遂に不治の症となり、客年八月廿八日、曹洞宗の管長は代理を以て病を訪はれしが、葉石効なく明治廿四年十二月三十日を以て従容として大寂定に入らる。以上の外、文久二年海東郡日置の禪昌寺、知多の普濟寺、羽後の青松寺、知多の円通寺等の開山となり、生前の著書には起信論の注釈を始め一宗の教籍を著述補訳せられしもの其の数を知らず、何れも皆一個の見識を供へざるなく世人の称して止まざる蓋し宗なり。

### 大光院の後住〔明治25年1月25日 第九十号〕

全院は当市曹洞宗屈指の大刹にして、世々博識高德の名師交々住院せられし事は世人に知らるゝ処なりしか、過般竜跳師の遷化せらるゝや、其の後住は何人なる哉は全宗信者の大に注目し聞かまほしと思はれし処なりしか、過る十二日全院に於て宗規に依り、本寺住職檀方総代等立会の上、竜跳師か生前に認め置れし遺書を開閲せしは、第一後住候補者は江崎接航師の由にて、全師は目下長崎県対馬国原港国分寺住職中なれば直に全師を聘する手続きを執行中なれば不遠全師か来院せらるべし。全師は有名なる白鳥鼎三老師の法嗣にして最も禅学に長せらるゝと云ふ。

### 真言宗組長会議〔明治25年1月25日 第九十号〕

去十二日、当市長久寺町なる長久寺に於て本県下同宗の組長会議を開かれしに、出席者四十名にて議事の項目は他府県より震災地へ送付されし義捐金配与の件、震災被害寺院への課出金を十ヶ年免除の件等なりしが、孰れも熱心に議せられし中にも、課出金免除の件に付ては中島郡なる萩原村の稲本大真師は飽迄も採用せられん事を懇願せんと中々力を入れられしやに聞く。

### 大光院の後住の懇請〔明治25年2月1日 第九十一号〕

大光院の後住の懇請の為、社員水野及び石塚無仏氏は同院檀信徒総代として出発されしに付、愛知仏教会にても尚講師の懇請等を兼ね一篇の屈請状を托されし程なれば、若し大光院の檀信徒は勿

論愛知仏教会にても江崎後住の承諾なき時は更に専使を派出せんと目下尚協議中なり。

#### 加賀国天徳院の後住〔明治25年2月1日 第九十二号〕

同院住職森田悟由師の永平寺へ晋山せられし後は、未だ住職も定まらざりしに、今回白鳥鼎三師の徒弟鷹林冷生師が後住に赴かるゝと云。

#### 仏耶討論顛末演説〔明治25年2月8日 第九十二号〕

兼て報告し置きたる、去る二日午後六時より当市大須門前善篤寺に於て開きし同会は、第一席の梅原薫山氏は東京伝道隊特派員なる湯谷某氏他二氏の耶蘇教に対する信仰の曖昧模糊一として明答の無きを一伍一什に論難し尋て、仏教が耶教と天地の差あるを細かに演説され、第二に近藤疎賢氏も亦同顛末を着実に述べられ、終に耶蘇の真理に適はざるを論駁すると共に、我仏教の幽且高なることを滔々弁しられたれば、満堂数千の聴衆は拍手と喝采の外なく、処々には外教徒も見受けたりしか、一人の反対するものなく同十時閉会したりしか近日になき盛会にて有たり。

#### 社員 の 来 状〔明治25年2月8日 第九十二号〕

法用を帯ひて対州へ発行せし社員水野道秀は本紙へ広告を申越せし如く、去る廿八日午前長崎を発して平戸、壹岐等へ寄港し、廿九日午後五時五十分対州厳原へ着港せしかは、兼て同地なる国分

寺より出て迎はれし三ヶ寺の住僧と共に予定の旅宿に着し、翌三十日は早朝旅亭を出て、国分寺に詣り来意を告げしに、国分寺住職江崎接航師は遠来の労を謝せられし等、其他当地発足より該地着の記行を送り越せしが余白なきを以て逐て掲載すべし。

#### 江崎接航師の去就〔明治25年2月8日 第九十二号〕

師は前項の如く水野道秀一行の招請使に接するや、予当地来住以来当寺の檀信及び末寺は勿論、其の他にも非常なる好意を辱くせしのみならず、当寺に住職せしは管長の任命なれば即時に去就の答辞は致し難く、因て末寺及び檀方総代等の協議会を開き、其の議決に由て如何とも決すべしとの応答なりしかば、先づ両三日の後ならでは其の去就は知れざるべしと。尚同地は旧暦を用ふるを以て、恰も去る三十日は元旦に相当せしより戸々門戸を鎖して一人の家外を歩行する者なく、殆ど懐古の情を起さしめたり云云と同様書末に記せり。

#### 仏教演説〔明治25年2月8日 第九十二号〕

本月十二、十三の両日、西春日井郡如意村岳桂院に於て仏教演説を開会する由。今其弁士を聞くに、名古屋市曹洞宗中学林教諭なる山田祖学氏、山本竹太郎氏外二名なりと云。

#### 愛知慈善会〔明治25年2月8日 第九十二号〕

本日の広告にある如く、同会は高岡徹宗氏の發起にて会員も頗る

多く、来る八日は日置教円寺に於て演説を開会されしが、尚明後十日新地女紅場に於て開かるゝ由。

#### 名古屋市基督教徒の増加〔明治25年2月15日 第九十三号〕

震災後名古屋市へ乗込たる耶仏両教の伝教師は、孰れも非常なる熱心と勉強とを以て各其宗派の搏拏擴張に尽力せしが、近來の調査に依れば昨年十一月下旬以来、当年一月三十一日迄に新に基督教に入りたる者六百七八十名に及びたりと国会に。

#### 石川馨氏の越後行〔明治25年2月15日 第九十三号〕

同師は、当市大谷派普通学校の臨時校長代理として再昨年以來非常に同校の為に尽力せられしが、今回越後国高田別院詰を命ぜられて去十三日出発されしを以て、同校生徒及教職員は孰れも別を惜みて停車場或は校門迄見送られしと云ふ。

#### 江崎師の去就〔明治25年2月15日 第九十三号〕

当市大光院の後住と推撰されし同師の去就は今尚決定せず、右は全く現住地なる対州の檀信徒と当市より発向せし屈請師の一行の協議会に一任されあるを以て、其の議決の上去就を決せらるゝとの事なれば、尚ほ十日余は費さるを得ざるへしとて同地よりの書信に見えしが、同地の檀信徒は容易に同師の転住を承諾せざるへしとの事なれば、師が当市への来住は甚だ六ヶしかるべしと思はるゝなり。

#### 愛知仏教会の講義〔明治25年2月15日 第九十三号〕

久しく震災の為に廃絶の姿なりし同会の講義は、当分の内南小川町照運寺内に於て開会さるゝに付き、先づ八宗綱要より始めらるゝと云。

#### 此の美挙あり〔明治25年2月15日 第九十三号〕

西春日井郡杉村大字上名古屋字柳原長栄寺（世俗開基の名を称してゴウテフト云）は、旧藩主徳川公御祈願所にして堂舎等善美を尽し地方屈指の巨刹なりしに、昨年十月廿八日大地震の災害に罹り、本堂（十一間四面）全潰し護摩堂（四間、五間）靈舎（三間、四間）は半倒し、数十体の古仏靈像は悉く破損して謂ふへからざる惨状にてありしに、名古屋市久屋町四丁目小林辰次郎てう篤信者ありて、一朝商用の序て該寺に参詣し其ありさまを見て大に歎かはしく思ひ、莫大の淨財を投じ自ら大工人夫を率ひ來り、護摩堂並靈舎を修繕するのみならず仏工を迎え、破損の仏体を修補するを以て近町近村其篤志に感じ我先にと出て來り、事業を助けし故に工事速に落成せしを以て、去る二月十一日より全十三日迄、美濃国谷汲山の住職を招請して入仏供養並震災死者追吊会及日供総供養を順次修行し、参詣者一同へ備餅を施与し、日々説教演説を行はれたりと云。

# 広告〔明治25年2月15日 第九十三号〕

## 愛知慈悲会広告

今回有志者相議り、仏教主義を以て広く窮民を救助せんとす。愛國護法の士は来りて同盟加入あらん事を希望す。

名古屋市日置古郷町教円寺内

愛知慈悲会事務所

発起人 一同

## 鵜飼祖箴氏の計画〔明治25年2月29日 第九十五号〕

同氏は左の如き計画を為し、仏教慈善会へ向け申告されし由。

今般別紙ノ通知仏教会理事尾張国東春日井郡小幡村長慶寺住職鵜飼祖箴氏ヨリ被申越至極同感ノ事ト奉存候間、此段不取敢及上伸謹テ奉仰御賢裁候也

前愛知岐阜両県震災救恤派出員

明治廿五年二月廿日 大 照 円 朗

仏教慈善会御中

鳳章ニ接シ、感荷之至奉拝謝候倍御清福諄々御化導ノ由、為人天奉通賀候、野柄儀ハ尚救恤ノ残務ニテ日夜奔走罷在候間、折角御放慮可被下候、陳バ予テ貴師モ御承知ノ如ク彼外教徒ノ創設ニ係ル岡山孤児院名古屋支部ニ於テ、今日既ニ三十余人ヲ救養致居レリ、然ルニ幸ヒナル哉、諸君尽力ノ効果ニ依リ、此小児ハ皆岐阜県ノ者ニシテ尾張国出生ノ者ハ、更ニ一人モ無之由、傲ノ該小児ノ原籍等略判明セシニ付、野柄ハ旧正月十八日弊寺ノ祈祷大殿若

会ヲ相済シ岐阜県下へ出張シ、第一着ニ各宗取締ニ就テ協議ヲ尽シ檀那寺又ハ原籍ノ隣保親戚等へ懇諭シ、兎モ角此方へ為取戻我仏教家ノ手裏ニテ教養ノ計画最中ニ有之、尤モ如斯一大難事業ヲ輕々ニ着手候ハ、却テ異論モ尠カラズト雖モ、苟モ我日本国ノ良民子弟ヲシテ彼外教者ノ種子トナラシムルハ、実ニ千歳ノ遺憾ノミナラズ亦仏教家ノ迂闊怠慢ト慙愧ノ至依之事ノ成否ハ予メ期シ難キモ、百難ヲ排シテ粉骨碎身可仕万一中道ニシテ力ノ給ラザルガ如キアラバ、將ニ愛知仏教会ヨリ委員ヲ上京セシメ仏教慈善会ノ贊助応援ヲ乞ハントス、此段前以テ諸大徳閣下ノ高聴ニ達シ被置下度、野柄等微力ナリト雖自任シテ国家ノ干城トナリ報仏ノ犠牲タラントス、乞フ事ニ臨ンデ東西路隔ルノ憾ナカラシメヨ泣血頓首

明治廿五年二月八日 鵜飼 祖 箴

大照 円朗殿

侍 史

## 愛知仏教会の名譽〔明治25年2月29日 第九十五号〕

同会にては、既に号外を以て報道せし如く、前代議士堀部勝四郎氏も同会の理事又今回当撰されし青山朗氏も同会の理事なるが、今青山氏が略歴を聞くに左の如し。氏は田宮氏を援けて王事に尽力し、身を軍門に入れてより曾て大坂に聯隊長となり広島に參謀長となり退きて陸軍少將に榮進せられしが、松本奎堂翁の門人にして又齊藤弥九郎氏は氏が剣法の師なりと云。



**広告**〔明治25年2月29日 第九十五号〕

真宗講話 毎月一日、二日、十五日、十六日夜

於鶴重町安浄寺

講師 千葉知養師

**広告**〔明治25年2月29日 第九十五号〕

本会 は昼夜共開会、二月中は入会金半額、原書及訳書にて教授す。委細は来て会則を見よ。

名古屋市伏見町三丁目

数学専門講究会

**熱田白鳥陵の記**〔明治25年3月7日 第九十六号〕

白鳥の陵は、熱田白鳥町法持寺の本堂裏にある老木古樹鬱葱せる丘陵なり。当陵は昔倭武尊東夷を平げ、凱旋して熱田に到り宮簀姫を寵し、暫く御逗留ありしが、別に臨み彼の草薙の宝剣を姫に托し、我都に帰らば必ず汝を迎へん。此剣は我床の守りにせよとて宣ひて、徒にて近江の胆吹に登り悪神を退治せんとして其の毒に当り、遂に能褒野にて薨じ玉ひしかは、姫は翌年建稲種の命と議り、彼の御剣を祭り玉ひしを今の熱田の神宮なりとす。去れば命の御陵をも築き奉らんと尊が常に所持し玉ひし所の大刀、鉾、鏡等を此の処に封じ、尊が陵の名に従ひて白鳥の陵と称へ奉りしかや。其の白鳥と称し奉るは尊が伊勢にて薨じ玉ひて後葬り奉りし陵より白鳥出で、天に上り大和国の琴弾野に止り、又飛んで

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（三）

河内の古市に留り玉ひしより其の所々に陵を築き、今は当所を合せて日本国中に尊が陵は四所在すなり。

白鳥陵の図は彫刻の都合に依り次号に挿入す。尚次号には外国人の画きし嘉永の昔亜米利加の使節と徳川將軍と謁見図を掲載す。

**学林の涅槃会**〔明治25年3月14日 第九十七号〕

当市曹洞宗中学林に於ては、陰曆釈尊の御涅槃忌日に相当せし故に、一昨十二日には午後三時より在学生六十余名は全林の大本堂に参集し、御逮夜法会として学監水野道秀師導師にて遺教經及舍利礼文の偈を誦せられ、亦昨日は午前八時より学生及職員一同大本堂に参列し、監理生駒門之師の導師にて出班焼香宣疏行道等の法式にて最とも静肅たる法会を修せられたり。

**陰曆十五日**〔明治25年3月14日 第九十七号〕

昨日は釈尊御涅槃忌の当日にて、当市各宗の寺院には何れも五色の餅を献備し法会を修せられしか、早朝より降雨の為め例年よりは参詣者も尠なからんと想像せしか、十時頃より降雨も止みたれば、門前町通り大須地方は参詣者も多く随分賑やかなる涅槃会なりき。

**広告**〔明治25年3月14日 第九十七号〕

真宗講話 毎月一日、二日、十五日、十六日夜

## 於大津町光円寺

講師 千葉知養

## 演説法要〔明治25年3月14日 第九十七号〕

去る六七の両夜、知多郡亀崎町海潮院にて伊藤覚典、渡辺璞哉、梅原薫山の諸氏にて演説開会。△来る十七日松山町安斉院に、四五の両日知多郡亀崎海潮院にて野々部至遊師が、廿日南小川町正福寺にて伊藤覚典師が、廿一日には宮出町永安寺にて織田宝山氏は孰れも導師となり教師となりて説教及び大施餓鬼を修せらるゝ由。

## 日蓮宗部内録司の任命〔明治25年3月14日 第九十七号〕

当市中下橋詰町円頓寺住職平賀宝竜氏は、去廿五日付を以て同宗管長より部内録司に任せられし由。

## 禁葷酒〔明治25年3月21日 第九十八号〕

禁葷酒とてふ標は処々寺々の門頭に儼として在るを見る。形ち有りて果して神ある乎。今や当市矢場町白林寺門外に新たに標石の建つを見る。其石は名と実と権衡を一にすと云ふ空石を立つるの住僧少しく慙る所なきか。況んや葷酒ならざるのみに於ておや。噫。

## 聖徳皇社〔明治25年3月21日 第九十八号〕

一昨々の両日は、当市橋詰町慶栄寺に於て聖徳皇社の第一会を挙行せられたる事なるが、爰に其概況を挙げむに、同寺の門前には数百の球灯を連ねて紅白の数旗半空に翻り、数木株の桜樹は当市豪商の寄付にて両側に植え頗る盛況を極む。最も昨日は丁寧なる勤行の後演説ありて、予報の如く一柳智成、柴山海雲、千葉智養、本多智旭、中村智眼の諸氏順次登壇せられて仏教の真理聖太子の来歴を陳べられ、聴衆の数百は満足の状ありたり。次に正林寺野田氏の説教あり。上堂堂下頗る雑沓を極めたりき。

## 東本願寺別院の彼岸会〔明治25年3月21日 第九十八号〕

春季彼岸は去る十七日よりにして、当日は天気も晴朗なりしかば、參賽者頗る多く散歩かたぐ雑沓見物の書生連も見受けぬ。十八日は雨天にて参詣もなからむと思ひしに、田舎の爺媼連は絶えず堂上に満てり。十九日は午前曇天なりしも漸く晴れしかば、近在より老弱の出市甚だ多く、雑沓は中々盛にして例年の警察出張所なる茶所は昨年の震災にて倒れたる為め、今年は新橋会所にて出張所を置けり。

## 曹洞宗学林の報告〔明治25年3月21日 第九十八号〕

全学林は廿四年度経費の決算報告に、全年度に於る精密なる考課状を添て一昨十九日管下寺院へ公布したりと云ふ。其の經常歳入一千二百六十九円五十六銭六厘にして、其の歳出は一千二百二十

五円五十銭なりと云ふ。

### 上宿支部会演説〔明治25年3月21日 第九十八号〕

愛知仏教会上宿支会にては過る十六日、興西寺に於て例月演説を催されしか出席員は佐々木祐繼、山内宗弘の二氏なり。全夜は寒気なるにも拘はらず、聴衆は殆んど満堂なりしと云ふ。

### 進徳講社員の本山詣て〔明治25年3月21日 第九十八号〕

一昨年来、当市に於て真宗大谷派の有志者が設立に係る同講には、常々講員中より抽籤法を以て同派の本山に参詣し法主に拝謁して酒盃を戴かるゝ例規なるが、本年は去る十九日、講員凡そ百名斗を連れ発起人長屋、竹内、浅井、梅村、長谷川、山田、伊藤の諸氏は発足されしと云。

### 慶栄寺太子堂之図〔明治25年3月21日 第九十八号〕

名古屋市橋詰町真宗大谷派慶栄寺中の庭園内にある太子堂は、其の昔太子御在世の砌大和国に元興寺とて一字の精舎を御建立あらせられし折柄、自から十六歳の御寿像を御彫刻ありて同寺の塔中に納め玉ひし尊像を安置し奉りたるものなり。偕斯る大和に安置されし靈像の如何に同寺へ遷されしと問ふに、頃者安政元年の正月に同寺の前住たりし義諦氏は、宗祖大師の遺跡を順拝の折柄に大和に至り元興寺に詣でられしに、太子親ら建立の堂塔伽藍のいたく破壊せし体を見て遺憾やる方なく同寺の住僧と協議して、遂

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（三）

に再建修繕する事とし、自から尾州より木材等を寄付し、漸く成就の効を告げし曉に、太子の靈夢ありて右の尊像を今の慶栄寺に遷し奉る事とはなりぬ。然るに義諦氏は、何卒して其の尊像を自坊に安置し奉るには太子が元興寺を御建立あらせられてより安政の再建に至りし迄、元興寺が塔堂の木材は全く太子御在世の御遺物なれば、何卒して其の木材を以て太子の靈堂を建築せんと思ひ、元興寺の住僧に語り既に再建されし為不用となりし旧堂の古材を運び寄せ、自坊の庭園に一字の堂舎を建て、太子を安置し玉ひしは左の図の如し。斯く靈像を遷し奉りたるのみならず、太子御在世の木材をさへ運び寄せて堂舎を建てられし事の藩主に聞へしより、藩主なる大納言卿は自から駕を枉げて参拝せられしのみか。幾千の金品をも寄付致されし上、其の堂舎の余材を以て更に一体の太子を彫刻せしめて城中に安置し玉ひし等の由来あるより、前年は宮内省よりの御取調べもあり、且全国宝物取調委員の鑑定と謂ひ、特に去る廿三年同宗の本山より同像を供奉して登山すべき命さへありて、更に法宝物たるべき鑑定書さへ下付されしかば、今は同寺の庭園に於て諸人の参詣も不便なる地に安置し奉るべき者にも非ずとて、本紙前号に掲げし如く聖徳皇社と謂ふ一社を結び、彼の古材を以て築きし堂舎の保存をもし、且つ例月太子会をも営まんと既に一昨日及び昨日は其法要を営まれたり。

### 南条文雄師の来名〔明治25年3月21日 第九十八号〕

同師は来る廿七日来名の上、下茶屋町の別院にて特別教会を開か

る、筈なり。

### 日蓮宗耀信師の赴任〔明治25年3月21日 第九十八号〕

当市小川町日蓮宗本住寺住職僧都池上耀信師は、部内録司にて年来宗務に軼掌せられ、甚だ人望家にて部下の帰依浅からざりし大徳の上人なるが、這般管長の特選を以て京都本山立本寺へ赴任せらるゝに付き、去る八日本住寺に於て県下同宗各寺院を招き最と盛大なる留別の宴を開かれたり。又十二日には有志者相謀り、池上師の為に聴雨亭にて開きたる送別会には、部内役課寺院を始め其他市内の寺院凡四十余ヶ寺にて午後三時席定まるや、林鳳宣氏は衆員惣代の資格にて立本寺へ晋山の祝辞を簡短に演説せられ、次に池上氏立て答辞を述べらる。夫より漸く配膳し盃盤の間献酬交々歎を尽し、終りに臨みて一衆同音にて池上氏万歳と大呼して全く散会は午後六時過ぎなりしと云。又同師は昨廿日を経て京都立本寺へ入山せらるに付、各寺院及信徒諸氏には熱田港迄見送らるゝ由。尚同師晋山は、来る廿四日其式を挙行せらるれば、録司円頓寺住職平賀宝竜師は末寺惣代として其晋山式に登京さるゝと云ふ。

### 修戒会〔明治25年3月21日 第九十八号〕

当市飯田町なる臨済宗禅隆寺は、昨年十一月徳源寺大和尚を屈請し並に四方の清衆を集め、開山二百五十年忌の大法会を執行し尋て授戒会をも開会さるゝや否、大震災に遭ひ為によしなく一時中

止されたりしが、今更に来る四月九日より前の会に継ぎ、同十三日満会の日割にて修行さるゝ由には氣候も追々心地よくなりたれば、其法水に浴する善男善女は定めつ此上なき愉快を感ぜらるゝならん。

### 彼岸法要〔明治25年3月21日 第九十八号〕

天台宗篠木名古屋組各寺院一同には、昨日正午より県下春日井郡不二村同宗円福寺道場於て、春季皇霊祭並一切群靈離苦得楽の為大曼多羅供の法要を執行し了て説教開筵、能化師尾藤全綱、吉田覚純及輪田勝澄、演説士江尻深海の諸師出席にて、何れも盛会に行はれたりとの報。

### 地藏講合同会の移転〔明治25年3月21日 第九十八号〕

同会は是迄当市矢場町白林寺内にありしが、今度都合により裏門前町総見寺内へ移され、来る廿四日には大導師無学前管長出張され、例に依り法筵を開かるゝ由。

### 広告〔明治25年3月28日 第九十九号〕

大須宝生院 は著名の古刹、殊に大須文庫の名海内に高く、名古屋の美観海内の由跡たりしに一夕烏有に帰す、吾人の遺憾遺る所なし、抑も浪越公園公園たるは蓋し同院のありたるを以てのみ故に、苟も同院にして旧観を失し故態を去らんか、公園の名何を以て立たん、爾のみならず同院は賽者看客常に足跡を絶たざれば、従て金融の便を名古屋市に与ふるも僅少ならじそは

兎も角、吾人は霊場として古跡として同院の直ちに再建されて旧觀に複し古態に還らん事を切望の余り、次号には同院の旧五重の塔を建立せし肖像の同氏の嫡孫なる棚橋利七氏方に秘蔵棚橋氏のせらるゝを幸ひ写影して、其の建立の宿願及び当時の事歴旧塔の真図をも旧殿の古図をも併せ掲載すべく尚掲け旧殿の古図をも掲載すべし

### 大須宝生院焼失雜件 (明治25年3月28日 第九十九号)

同院焼失の件に付き、当市の某新聞は根もなき空説を伝へ世人を惑はしむるが、第一同院にては焼失せし本尊等更になし。(五重塔の本尊も焼失せず)又今回の焼失に付ては孰れも熱心に再建を希望するのみならず、奉納物も掛員は殆んど閑暇なき程にて既に八百円に及び、且愈再建とならば新地よりは少なくとも一万円は寄付すべしとの事なる由。又一昨日も当市内の馬車組合より我々賤業者にて斯く率先せば、他の財産家の多少の寄付もあるべければ僅少なれどもとて金五十円を差出せし由、又愛知仏教会にても全会挙て再建に賛成せんと既に夫々協議中なり。

### 大谷派普通学校の有志宗祖の降誕会を祝せんとす (明治25年3月28日 第九十九号)

同校の有志は、来る四月一日の降誕日を以て東別院の東なる広見に運動場を設け種々の遊技運動を為し、且又同処の見晴餅を借り受けて教学上に関する種々の事跡、其の他の事柄を実物を借り来りて説明書を付し、名さへ笑覧会とし抱腹絶倒の中に教学上の事

を知らしめんとする仕組にて、尚ほ招状をも発して他の觀覽にも供し、且午後三時より伏見町信道説教場に於て同校生徒及び其の他の出席にて仏教演説を開会せらるゝ由なりと云。

### 南条博士の来名 (明治25年3月28日 第九十九号)

師は去る廿五日午後來名、当市下茶屋町鶴屋に投宿、翌廿六日は大谷派普通学校にて一場の修身談を致され、十一時半より師団階行社にて婦人会の法話、午後は東別院にて第二特別教会、昨廿七日は第一特別教会及び信友会の講筵に臨まれ、本日より美濃の大垣に赴き、来る三十日再び来名の上三河に赴き帰東せらるゝ予定なりと云。

### 清聴水師の一周忌 (明治25年3月28日 第九十九号)

来四月十日、当市万松寺に於て施行し、同日師が生前の遺稿を頒ち演説会をも開かるゝ由。

### 八事山の図 (明治25年3月28日 第九十九号)

同山は当国愛知郡八事村にあり。本図は其の東山の頂上太日堂の真影にして森村雲峯氏の筆なり。今尾張誌を案づるに、興正寺は八事山遍照院と謂ふ。泉州大鳥山神鳳寺末なり。元禄元年戊辰瑞竜院君是を創建し給へり。弘法大師を開祖とし僧天瑞を中興の祖とす。正堂方丈庫裡護摩堂輪藏鐘樓僧寮をはじめ鎮守八幡社もあり。山の頂上に銅像の大日如来を安置して本尊とす。長一丈二

尺、石坐にて南面に坐す。石坐の下方に経石を蔵めたり。此の頂より眺望すれば景色いふ斗りなし。像背の銘に娑婆世界夷下南瞻部州大日本尾張国愛知郡八事山遍照院興正寺本尊大日如来大願主従二位権大納言光友朝臣、維時元禄十年丁丑孟夏大吉祥日、当時中興末孫天瑞円照銘之とあり。又標石二基あり。一は女人禁制、一は不許軍酒入界内といふ七字を彫り、門内に不動の石像又禁制の札、五輪の塔などあり。之れを東山と謂ふ云云。西山は昔は比丘隱退の地にして女人の参詣をも許せり。抑も当山は古より尾張高野と称し、女人の登山を禁じたりし真言律宗の梵刹にして、世々国君の崇敬浅からず、諸人の敬仰も薄からざりし当国の名刹なり。

#### 曹洞宗中学林の消防〔明治25年3月28日 第九十九号〕

去る廿二日の出火に際し、当市万松寺内の同校にては学監以下生徒五十余名を引率して善光寺出張所及び七ツ寺并ひに博物館等の火災を消防されし由。

#### 大須観音の焼失に就て〔明治25年3月28日 第九十九号〕

同寺は前年真言宗新義派の別格本山に昇級されしのみか古来著名の古刹にして、所謂大須文庫には宮内省勅封の宝物も多く、県下に於ては最も重んずべき霊場なりしも、一夕烏有に帰したるは惜むべきの至りなれど、去り込致し方もなき事なれば、何卒して旧観に復する様願はしき事也。因に記す。同寺の焼失に就ては最も

水の不充分にもありしかねど、消防夫の働きもチト不注意の点なきに非ずと諸新聞も評せし処なるが、同寺の二王門に安置せられし二王尊も既に焼失せん斗の所なるを、末広町なる播磨屋（仏具店）の主人が必死となり、居合せし人と共に漸くの事にて出し奉りし等、其の他仏体は一軀も不残焼失を免れ、本尊は同夜直ちに袋町の聖天へ移し奉りし等は不幸中の幸なりしが、同寺内の五重塔は其の建築の美なる恰好の宜しき等は他に類も多からざる者なりしが、其の建築者は今より九十年前、当市の俳人多田立意翁の祖父棚橋嘉七氏が願主にて建築せし者の由にて同氏の墓は焼失せし。本堂の北手に再願寿塔居士と記したる者なりと云。今焼失せし堂塔の事に付き、或る建築者の予算を聴くに、本堂を再建するには三万円を要すべく、塔を建つるには二十万円を要すべしとの事なれば、尚々惜みても余りある事なり。

#### 広告〔明治25年3月28日 第九十九号〕

近火ノ節ハ早速御見舞被下混雑中尊名伺洩有之モ難計、乍略儀爰ニ御礼申上候

廿五年三月 当市門前町  
廿三日 本願寺別院

#### 火災御見舞御礼

火災ノ節ハ早速御来会御尽力ニ預り、御蔭ヲ以テ本尊始別条無之段不幸中ノ大幸ニ御座候、非常混雑中尊名伺洩モ不少、因テ乍略儀新紙ヲ以テ御礼申上候

三月廿二日 門前町 大須宝生院

近火の節は早速御見舞に預り難有候、乍略儀御礼申上候

善篤寺

広告〔明治25年3月28日 第九十九号〕

毎度近火の際は早速御見舞被下、混雑中尊名伺洩等不少乍略以新紙御礼申上候

裏門前町

総見寺

近火の際は早速御見舞に預り、其砌貴名伺洩も不少乍失礼紙上御礼申上候

門前町 大光院

一昨夜近火の節は早速御見舞に預り、乍略儀以新紙御礼申上候

曹洞宗中學校

近火の際は早速御見舞被下兩度の御礼申上候

総見寺内

光勝院

愛知仏教会の大演説会〔明治25年4月4日 第一〇〇号〕

愛知仏教会の大演説会は予記の如く、昨日及び今日当西別院に於て開会せられしが、其の大略を記さば、当日は門前に六根の大旗を掲げ、玄関前には堅固なる竹囲を設け、招待員昇降口会員昇降

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（三）

口、受付、入会申込所等を設けられしが、定時前より続々と来聴者あり。既に満堂立錫の余地なきに至りしが、社員水野道秀は開会の主意及び震災救恤の顛末を報告し、続て弁師登壇演説中は、拍手喝采の声は湧が如く例に変わらぬ盛会なりしが、今回の演説に付、来会出席の弁師は神谷大周、小寺黙音、鎌田渤海、岩崎弁友、児門智随、関本諱承、林鳳宣等の諸師等なり。

大谷派普通学校有志の降誕会〔明治25年4月4日 第一〇〇号〕

大谷派普通学校有志の降誕会は予期の如く、去る一日開会されしが、当日は天氣の都合も好く頗る賑合しが、式場なる信道説教場の演説及法話も満堂の聴衆にて招状に応じて来会されしは、曹宗中學校の生徒及び職員を始め育英學校、不及學舎、浄土宗及び真言その他の宗學校并ひに官立學校、其の他に無慮八百余の來賓なりしと云。

故清水師追吊会〔明治25年4月4日 第一〇〇号〕

随徒諸氏の發起にて来る十日、当市裏門前町万松寺に於て同寺住職生駒円之大導師にて聴水師一周年忌追吊を営弁せらるゝに付、已に随徒並に帰依の信徒二百有余員の人々へ案内状を発せられ、該日聴水師生前中の禅偈録を呈せらるゝと云ふ。續いて午後一時より追吊演説を開会せらる。出席弁士は黄檗宗前管長林道永、浄土宗大本山清浄華院住職神谷大周（照会中）外数多の諸士なれば、右聴水師に有縁並に有志の諸君は道俗を問はせ、例刻御參聴

ありたしと発起者は希望し居らるゝ由。

### 大須宝塔建立の発願者〔明治25年4月4日 第一〇〇号〕

同塔建立の発願者棚橋嘉氏は、棚橋利右衛門氏の二男にして、濃州生津の生れなるを以て通称美濃屋と号し、名古屋袋町に住せり。文化十二年乙亥、自から大須真福寺に宝塔を建立せんと発願し、之れを世人に課るに人にて狂とし、迂として笑へり。然れども氏が願心の堅固なる皆て動かず、遂に工を肇め、土を運ぶに至るに及びて、曩に狂とし、愚とせし者も番を荷ひ財を寄せし等は別記の如し。遂に文政十一年戊子、今を去る七十九年前落成式を行に至れり。今万松寺黄泉和尚の記文を録して、氏の伝に代ふ。

不須復安舍利此中、既有如仏全身則塔之成焉、法身之成也故曰本地法身法界塔婆矣、再願寿塔信士、通称嘉七、姓棚橋、濃州生津人也、自称美濃屋、不忘其本焉、文化十二乙亥、忽発建五重大塔於北野山之願、入呼為迂、然樹海移山確乎不移、斧鑿響街、庚発遍邦、始笑、中而輕、終而翁然而伏、於是乎、笑者、怪者、負乎砂石、荷乎番掘、四方來覲、今茲文政十一戊子、五重聳漢、九輪磨天、金碧交光、縑素拭眼、功成名遂、遽然而卒、実四月五日也、或曰塔成而人亡命焉哉、余曰、其生也有自来、維嶽降神成此巨功、此中既有豈唯如来、況其地法身、法界塔婆則寿塔信士、豈在干生死際、孝子某、需記其事、為書其所聞、貽諸将来、

文政戊子夏五月

勅賜海雲山主人黄泉杜多操触於万松寺客席

既に前号にも記載せし如く、嘉七氏の墓は今大須境内釈迦堂の北にあり。氏が子孫は今尚隆に、其の孫棚橋利七氏は俳諧を好み、明治三年二条家に参殿、其の宗匠を命せられ、姓を多田に改められしは清和源氏多田の末孫なるを以てなりと。茲に掲げし嘉七氏の肖像は、則ち氏が家に伝ふる所の物にして、画は日比野白圭氏の筆なり。

### 広告〔明治25年4月4日 第一〇〇号〕

来る十日、万松寺に於て一周忌追吊を営み因に、

故涛聴水師同師生前中の禅偈録を呈す。道俗来場の士は、来る六日に御通知を乞ふ。随徒敬白

同日午後一時より追吊演説開会出席弁士

林道永、神谷大周両師

### 雲英師の来名〔明治25年4月4日 第一〇〇号〕

因明を以て有名なる雲英晃耀師は、去る一日来名の上巾下押切の富田氏方に一泊、一昨二日は養照寺の真宗講話会に臨まれ、続て三州へ向け出發せられし。

### 大谷派名古屋古屋市組長〔明治25年4月4日 第一〇〇号〕

当时前津楽蓮寺住職佐々木賢淳氏は、同派組長を命せらる。



### 祈念に説教〔明治25年4月11日 第一〇一号〕

当市の有志者は、既に累年の災害ありしを憂ひ、来る十二日より十四日迄松山町安斎院に於て、同院学林生徒三十余名の出席にて、国家安全、五穀成就、祈念の爲め金剛般若經千部会を修行さるゝ由、因に説教も行はるゝと云ふ。

### 愛知仏教会の講義〔明治25年4月11日 第一〇一号〕

同会にては、去る五日より十日迄、当市菅原町の浄教寺に於て神谷大周師を聘して、天台四教儀を講述されしが、日々の聴衆は五六十名にて、特に師が熱心なる講述には一同感佩して聴講され、五日間に四教儀一部を講了せられき。

### 天爵大神の死去〔明治25年4月11日 第一〇一号〕

天爵大神と異名されし当市小川町の水谷忠厚氏には、去る五日薬石効なく死去されしが、氏は既に世人の知れる如く、当国にては瀬戸街道の開鑿、矢田川の架橋、其の外越前に赴きて永平寺の道路を開きし等、枚挙に遑なき迄土木の工を興されしも、自から耜を携へ畚を荷ひ、衆を集め敢て費途に世人を悩まさざりしより、各宗の管長を始め貴顕等より書画等の寄贈多く、既に去六日葬送の際も各宗管長の揮毫旗六旒と大谷派本願寺の管長が書き与へられし六字の名号の旗押し立て、其他本県官吏より贈られし数瓶の花に会送者も三百余名にて、就中各宗寺院の随喜の夥しかりしは、近來になき葬送にてありき。尚氏が法号は松栄院天爵仏母上

座と号し、氏の檀那寺なる矢場町政秀寺へ埋葬されたり。

### 曹洞宗二山の関係〔明治25年4月11日 第一〇一号〕

全宗の大本山と称するは、宗祖道元禪師の開基に係る越前永平寺と又其四代目なる瑩山禪師の開基に係る能登総持寺なり。然るに永平寺は宗祖の開宗未だ歳月を経ざる時代の開創なれば、其末寺は僅かに四千余ヶ寺なるも、之に反して総持寺は開宗より三代の久さしきを経て宗運漸くに発達せし時代の創始に係れば、其末寺は現に八千余を有せりと云。去れと永平寺は、宗祖の開創に係れば総本山と誇称し、総持寺最も多数の末寺を有し、宗祖に亜く大祖廟所なればとて、亦総本山と唱え両雄並ひ立ち、往古より両山の間に紛議の有りし事も尠なからざりしが、就中明治二三年の頃は分離論囂々として末寺の人心頗る動揺せしが、当時本県に於ては万松寺鑑法、白鳥山鼎三、瑞泉寺哲心、外十六ヶ寺、格地寺内は断乎として分離を拒絶せし事なりしや。全紛擾は明治五年に至り、大蔵省の演達に依て漸く鎮定せる事となれり。又明治廿二年に至り、両山盟結なる者を訂結して今日に至りし者なりしと云ふ。

### 広告〔明治25年4月11日 第一〇一号〕

大本山総持寺貫主の諭旨を遵奉し、我等一同請書を差出せり。此段曹洞宗大本山総持寺末の寺院諸君に告ぐ。

市宮出町永安寺 篤明会本部

## 曹洞宗大本山総持寺末の寺院御中

## 故清聴水師追吊会概況〔明治25年4月18日 第一〇二号〕

予期の如く、去十日当市裏門前町万松寺に於て行はれたる同師一周忌追吊会の模様は、総門中門の両所に六根の仏旗を掲げ、一室には数十の活花を献列し、玄関に紫白の幔幕を張り、仏殿の莊嚴は最と善美を尽し、凡そ十一時頃迄に二百余名の来賓ありて、一々茶屋に案内し妙齡の女子に呈茶せしめ、尋て午餐の享応あり。参詣人は続々詰懸け報鐘に従ひ、二百の僧侶は本殿に列席し、奏楽と共に導師生駒円之師、上殿献供中は楽を奏し、読経了て会主近藤得昇氏開会の旨趣を述べ、次に近藤疎賢（曹洞宗）林道永（涅槃の説）神谷大周（追恩）三師の演説あり。尚数名の出席弁士もありしが、時間の無きが為め、右三氏にて閉会を告げ、終りに傍聴者一同へ饅頭を施与され、頗る盛大なる供養にて皆隨喜満面の様に見受けたりき。

## 育英学校の運動会〔明治25年4月18日 第一〇二号〕

去廿三日、愛知仏教会の監督に係る愛知育英学校は、生徒百三十余を教員之を率ひて運動会を城東矢田河原に催したりと。又裏門前町福寿院の有隣学校も同様、一昨日八事山にもよほしたる由。

## 曹洞宗会議〔明治25年4月25日 第一〇三号〕

本県下曹洞宗寺院には毎年一度定期会議を催し、諸般の経済及宗

務を協議せらるゝ事なるが、本年は過る廿日より三日間、裏門前町万松寺に於て議會を開かれたりしか、同宗は目下分派非分派の紛擾中にて、此の議會は如何なる結果に至るやと全宗の人々には頗る注目を要せし事なるが、今回の議會はサノミ紛擾せし者なく、議案は凡そ四条件にて稍當時の紛擾問題に似たる建議案もありしが、何故か提出者より之を撤回する事となり、依て震災に就き管長より下付されたる三千九百円の金額を夫々被害寺院へ配与せし報告あり。布教興学の件に關し、当務学監より廿四年度学事成績の考課説明結算報告等をなし、学林經常費は臨時会に於て決議せし如く実行する事とし、且学林は将来宗政に如何なる變動あるも本県は一致協力、宗政以外に立て倍々後進生を養生する事に決し、其他二三件の議を決し閉会を告げられたりと云。

## 授戒会円成〔明治25年4月25日 第一〇三号〕

昨年震災の爲め延会されし当市飯田町禅隆寺の授戒会は、本月十四日より開檀、去る廿日最と盛大に円成せしと。

## 仏教少年教育会の設立〔明治25年5月2日 第一〇四号〕

当市蒲焼町真広寺内に設立されし同会は、毎月第一日曜日午前八時より正午迄開筵され、小年適當の教訓を施さるゝ由にて六才以上十五才以下の者二百名以下を募集中なるが、別に学費をも要せず、専ら發起人及び世話人より義捐さるゝ金員にて費用を支弁し、専ら仏教の種子を播植せん主意なりと云ふ。

**杉本道山氏**〔明治25年5月2日 第一〇四号〕

愛知郡鳴海村瑞泉寺住職なる同氏は、愛知県第一号曹洞宗々録所の副長を能山貫主より命せられしと云。

**愛知仏教会總會**〔明治25年5月2日 第一〇四号〕

全会は弥本月十六日、其の本部なる門前町大光院にて本年度の總會を催さるゝ筈にて、全会は現今七千余名の会員なれば、全会の会則に依り總會に列するを得るものと之に加はらざる者の制限あれば、目下頻り右資格者の調査中なれば整頓次第之を各宗取締へ通知し、其の資格者中より各宗取締は出席議員を撰定し總會へ列せしむるの筈なりと云ふ。

**釈尊の降誕会**〔明治25年5月9日 第一〇五号〕

過る四日は、陰曆四月八日に當りて釈尊降誕の聖日なりとて、市内各宗の寺院にては華堂を造り甘茶を沸かし種々なる奉供を為せし中にも、当市曹洞宗中学林にては門前に大仏旗を交叉し大講堂に花堂を設け灌仏を安置し、午前十時学生五十余名及び職員一同参列し千法会を修せられたり。其の順序は献供、出班、焼香、宣疏灌仏偈、聖号称揚、楞嚴行道、摩訶梵、回向等にて、同日は学生の競書会を催し賞品を授与し席上、山内教師、社員水野の演説ありて最も殊勝なる法会也しと云。

**愛知仏教会の總會**〔明治25年5月9日 第一〇五号〕

本日の特別広告にある如く、来十六日午後一時より本部なる門前町大光院に於て總會を開かるゝ由なるか、同会は現今七千余名の会員にして一万三千余の口数を有せらるゝ巨大の会合なれば、多数の会員を尽く参集せしむるは到底能はざる事なるを以て、同会の会則に規程しある如く總會に列する事の資格ある者及び各宗取締より一派毎に一名参列せられ、同会が昨年来挙行せし事業及び經濟に關する諸報告役員の改選及び将来に於て挙行すべき事業並に会則の改正等なるが、右に付役員諸氏は帳簿の整理、会員名簿の調査を始め昨年来震災救恤事業の報告等を為さん為、目下非常に多望の由なるが、救恤事業の報告は今猶義捐物品等を寄せらるゝ人あるが為に、迎も今回の總會には其の終結を告る場合に運ぶまじとて甚だ遺憾に思ひ居らるゝ由。

**曹洞宗務所**〔明治25年5月9日 第一〇五号〕

本県曹洞宗録所は門前町天寧寺内に接地せられ、日々其の事務を取り扱ひ居らるゝと。

**上宿支部会の演説**〔明治25年5月16日 第一〇六号〕

本日午後六時より上宿興西寺に於て定期演説を催さるゝ筈にて、其弁士は曹洞宗学林教師山田祖学、広間隆円の両師が出演さるゝ由。

**見真大師の降誕会**〔明治25年5月16日 第一〇六号〕

当市下奥田町真宗本派西念寺に於ては、来る廿一日午後一時より降誕会を修し、尋て愛知仏教会より派出演説を開会する、由にて、全日社員広間、水野両名共出席する筈。

**愛知仏教会の講義所**〔明治25年5月16日 第一〇六号〕

全会は這般、下長者町通り本重町下る西側へ講義所を設置し、毎月定期時日を撰定の上は各宗より高僧を聘し、講義法話を開会せらる、由にて、去る十四日より全処に標札を掲示されたり。

**合同会の開延**〔明治25年5月16日 第一〇六号〕

当市裏門前町総見寺内に在る地藏講全会は、来る廿四日午後一時より定期法会を開かるゝに付、全日大導師無学禅師の臨席ある由にきく。定めて賑はかならん

**法会及説教**〔明治25年5月16日 第一〇六号〕

当市松山町梅屋寺に於、昨十五日羅漢会を修し、野々部至遊師が説教を勤められたり。○来る十七日午後一時より松山町安斉院に於て観音懺摩法会を修し並ひに法話をも修めらる。○又南小川町長全寺に於て、来る廿日午後一時より羅漢尊供養会を修し及説教をも執行の筈。○来る廿三日午後一時松山町聚福院に於て羅漢会を修し、尋て至遊師の説教を催す由。

**愛知仏教会の事務所移転**〔明治25年5月16日 第一〇六号〕

震災後仮事務所は南伊勢町にありしが、去る十日より下長者町四十三番戸へ移転せられたり。

**伊藤寛典氏の上京**〔明治25年5月16日 第一〇六号〕

氏は曹洞宗分離事件に関し、電報に接して近藤疎賢氏と共に上京せらる。

**瀬尾音次郎氏の送別**〔明治25年5月16日 第一〇六号〕

同氏は当市大谷派普通校に在て其の創業より尽力せられしが、今回郷里の都合止むを得ざる事情有りて同校を辞し帰京せらるゝに付、去る九日は同氏の知己より、同十日は同校の職員より有隣亭にて、昨日は同校生徒一同より孰れも別を惜みて盛大なる送別宴を開かれし由。

**慈悲会発会式の概況**〔明治25年5月16日 第一〇六号〕

去る十日は、予報の如く午前八時より同発会式を当市古郷町敬円寺に於て挙げられしが、当日演説に出席されたるは先づ全会主唱者なる高岡徹宗氏が慈悲会を組織したる所以及将来に向ての方針とを縷々陳述、次に滋野井秀雄、萩倉耕造の両氏は次序独特の快弁を鼓し、滔々我が大教の道理を述べられしかは、会員及満堂の聴衆は一層の感を起したりと。又同日は江湖の慈善家より寄せられし米粟物品等を窮民へ施与なしたりとぞ。

## 愛知仏教会の総会〔明治25年5月23日 第一〇七号〕

全会は予記の如く、去る十六日午後一時より当市門前町大光院の本部に開き、同会の監督酒井恵遂氏（総見寺）、会長席に就き總會を開く旨を告げ、夫より会計員河村文六氏前年度總會より本年三月廿日に至る迄の会計及び震災救恤に係る出納の報告を為し、次に理事水野道秀氏は前年度に於て同会が舉行せし事業の顛末を詳細に述べ終て、理事者より提出されし同会規則の第二条各宗各派同心協力以て仏教上の運動を為すものとすの各派の下へ「ノ僧俗」の三字を挿入す。第六条の課目を貧民救恤、新聞発行、施療施藥、講義演説、少年教育、免囚保護、感化院設立、その他慈善事業と変更の上学校設置の一課を加へ、第十三条入会申込の条下に但し地方の便宜により模寄の寺院又は理事、若くは奨励委員へ申込みも妨なし」の一項を加へ、第二十一条奨励委員書記を除くの外、誘員の任期を一ヶ年を「三ヶ年」に改む。第三十条評議員は会金十口以上を負担する者を撰出すを「二十口以上」と改むの議案は、従前の十口に第廿六条會議は全員の三分の一以上出席するに非されは議事を開く事を得ずの刪除案は、二十名以上と修正第三十七条會議の議事細則は別に定むの一条刪除、第三十九条の次へ本会の事業中職務等の為支障ある者は其の事業に預らざる事を得の一項を加へ、其の他第二号議案として会計規則の改正案ありしが、此の改正案は総て従前の俚とする事に決定し、又会費の取り集め方はなるべく各町の篤志者に托する事に漸次改むる事、施療施藥は場所を定め、毎日或は隔日に医師の出張を乞ふ事、感

化保護院、少年教育、学校拡張案等は常会委員に托する事とし、一同散会されしは午後六時過なりき。

## 大須諸堂再建〔明治25年5月23日 第一〇七号〕

全再建に就き世話人及住職は非常に尽力中なりしか、既に全山門は当市門前町辺が尽力にて再建する事に決し、其他諸堂は当市各町へ義捐を依頼し、亦更に再建世話掛りとして当市の紳士豪商等が尽力せらるゝ筈となり、亦大坂、東京地方よりも義捐者ある由にて、旧来の殿堂より一層宏壮煥乎たるものを建築する計画にて夫々図面を製して有志者へ配付せられたりと云ふ。

## 真宗講話会〔明治25年5月23日 第一〇七号〕

同会は、来る二十五日午後一時より当市押切町養照寺に於て大谷派勸令使牧野神爽師を聘し正信偈の講話を開かるゝ由。

## 特別広告〔明治25年5月30日 第一〇八号〕

下長者町本会講義所に於て、左の期日講筵開会候条本会々員限り参聴相成度、此段報告候也  
六月二日午後七時より

正信偈、広間隆円師

修証義、野々部至遊師

愛知仏教会本部

**鷹林冷生師**〔明治25年5月30日 第一〇八号〕

曹洞宗越本山監院として最も徳望の耆宿なる全師は、近頃重症に罹られ目下当市鼎三老師の隠室に療養中なる由なるか、全宗多事の今日に師の病あるは惜べきことなり。

**春日社前に大和楽を奉奏す**〔明治25年5月30日 第一〇八号〕

当市花車町真宗大谷派浄信寺住職羽塚慈音氏は兼て奏楽に堪能なる人なるが、前年来大和楽てふものを工風し逐々拡張せらるゝ事なるが、過日京都に行かれし帰途、大和国に至り有名なる春日の社に参詣して同社に伝わりあり倭舞を參觀せし後、神官に乞ひての其案内にて社前に至り大和楽を奉納されしよし、其の曲名は月かげの曲、信教楽（横笛）四恩楽（唱歌）なりしと終て、茶菓の饗を受けて帰国せられしが、其の後千歳楽の一曲歌墨譜筆譜等を送呈せられしと云。

**愛知仏教会の施療施薬**〔明治25年5月30日 第一〇八号〕

愛知仏教会の施療施薬は本日 of 広告にある如く逐々拡張せらるゝが、目下高橋順庵、瀬尾順節の二氏と外数氏が担任中なりしと云。

**大須観音の遷仏式**〔明治25年5月30日 第一〇八号〕

大須観音の遷仏式は愈々仮堂出来に付、来る一日を以て挙行せらるゝ由にて、既に弊社へも招状を送られたれば参列の上、次号に

は其の景況を報導すへし。

**布薩会**〔明治25年5月30日 第一〇八号〕

来る六月一日、当市松山町安斉院にては午前十時より大般若經を転読し、又十二時より大布会を修し説戒をもちといふ。

**曹洞宗中学林**〔明治25年5月30日 第一〇八号〕

曹洞宗中学林は本月十日より臨時試験を挙行せられしが、学生中好生蹟を得たるもの多き由なるが、来る七月下旬には大試験を挙行し、又秋期よりは三十名の新入学を許さるゝ筈にて、已に全宗の本寺へ告知せられたるときく。

**講義所開筵式**〔明治25年5月30日 第一〇八号〕

当市下長者町に設置せられし愛知仏教会の講義所は、予期の如く去る二十四日午後七時より水野道秀、山田宗弘、中村智眼、野々部至遊師等交々法話をせられしが、全夜強雨頻りにして為めに参聴者も多からざりし由。

**各宗教導取締集会**〔明治25年5月30日 第一〇八号〕

先きに各宗管長総代大谷光瑩師より震災被害寺院救助の義に付宮内省へ歎願せられしが、該件に関し過る二十七日午後一時より臨濟宗総見寺に於て協議会を催されしが、全日は臨濟宗酒井恵遂、真宗本派広間隆円、曹洞宗生駒円之、浄土宗古沢弁応、其他日蓮

宗、浄土宗西山派、真言宗、天台宗等の諸氏、何れも出席せられたりと云ふ。同日協議の要件として提出せられたる事項は左の如し。

#### 震災地取調査を要する件

一 単に寺院にして政府若くは宮内省の扶助を受けし有無

一 単に寺院へ対し政府より小屋掛料を下付せし有無

一 僧尼一個人の資格として政府若しくは宮内省より人民一般の扶助を受けし有無

一 僧尼にて負傷又は死亡したる者へ政府より救恤、吊祭料の下付したるの有無

一 寺院の家族にて負傷又は死亡したる者へ政府より吊祭料を下付したる有無

右の通一國郡別及各宗別々に取調被下度候以上

#### 広告〔明治25年5月30日 第一〇八号〕

来る七日、午後七時より於下長者町講義所

般若心経 山内宗弘師

心地観経 水野道秀師

来る十二日午後七時より全上

考 論 山田祖孝師

唯 識 中村智眼師

#### 愛知仏教会本部

#### 広告〔明治25年5月30日 第一〇八号〕

六月一日午前十一時

大般若経転読 全午後零時より 大布薩会 右修行候条御参詣被下度御案内申上候 安 齋 院 世話人 当市松山町

#### 愛知仏教会の常会〔明治25年6月6日 第一〇九号〕

本紙広告の如く、来る十日午後一時より下長者町なる同会講義所に於て催さるゝ常会は、去月開会されし総会の決議に由り、常会回しとなりたる議案の協議と外に緊急なる事件も之れある由なり。

#### 同会の講義〔明治25年6月6日 第一〇九号〕

同会の講義は明七日午後七時より、下長者町（金城新報社の向）の講義所に於て般若心経を山内宗弘師が、心経観経を水野道秀氏が講ぜらるゝ由にて、尚他にも同会の講義所を開かるゝと云。

#### 大須宝生院の遷仏式〔明治25年6月6日 第一〇九号〕

思ひ起せば、本年三月二十二日は如何なる日ぞ。無情にも祝融氏は名古屋市の美観として、由緒ある古寺として、最も吾人の敬愛せる北野山真福寺の殿堂塔宇を奪ひ去りたり。爾来七十余日の間

飯堂の建築に従事されしが、去る一日を以て落成を告げしかば、同日午前一時に本尊の遷仏式を行ひ、午後一時より大法要を修して同寺の檀信諸氏及び三百有余名の来賓を招き盛大なる遷仏式を挙行されしが、一同熱心に諸堂再建の止むべからざるを告げて散会せられしは午後六時頃なりき。因に記す。今回の遷仏式に就ては、尚四五日間は秘仏として従来開扉せし事なき同寺の本尊の戸帳を開き置き、広く内拝せしめらるゝ由なれば、得難き好縁続々参拝ありて二世の幸福を祈られよとは記者の贅言。

#### 善光寺の御判を授けらる〔明治25年6月6日 第一〇九号〕

当市七ツ寺境内の善光寺出張にて、去る三日より五日間善光寺の御判を頂戴され、且如来絵伝をも説かるゝ由。

#### 大谷派普通学校の創立記念会〔明治25年6月6日 第一〇九号〕

去る二日は当市大谷派普通学校の第五週創立記念日なるを以て、校員及び生徒一同は脩身教場に集まり、幹事児門賢象氏は勅語を奉読され、次に大江学師の演説、次に書記滋野井氏、次に生徒蓮容法全、一柳智成、土居恵鍔、諸氏の演説、同児玉竜天、田中広貫、小桜縁慈氏の祝文並に数席の演説ありしが就中、一柳氏が三陛下及び真宗並に該校の万歳を祝されしは壮快なりきと、尚式終て後も有志者の催にて校内に演説会を開かれたりと云。

#### 真宗講話会〔明治25年6月6日 第一〇九号〕

同会は本日の広告にもある如く、来る十日午後一時より当市押切養照寺に於て、大谷派勸令使牧野神爽師を聘して正信偈の統講を開かるゝ由。

#### 熱田白鳥福重寺の法要〔明治25年6月6日 第一〇九号〕

去る廿六日、万松寺方丈の導師にて五十有余の僧侶を招き大般若を転読されしが満堂立錫の余地なき盛会なりきと。

#### 大須宝生院起工式〔明治25年6月6日 第一〇九号〕

全院にては、来る九日本堂再建工事の起工を挙行せらるゝ由なるか、是迄世間に行れたる起工式には、当日其の式場に用ふる棟梁の木材は、多くは仮材を用ふるの習慣なるも、本回全院起工式は棟木に用ふべき実材を以て之に充んものとて、其の木材を撰沢中なりしか、既に右に適當なる材木の買入も整ひ、過る三日には古渡町の運搬組一同は寄進として一百五十余名の工夫揃ひの半纏を着し、堀川筋より全院の境内へ該木材を運搬したりしか、全院再建に關し、其の重なる世話人なりと云を聞くに伊藤彦八、津田理三郎、永田甚蔵、伊藤奎兵衛、水野伊三郎、土川久蔵等なりしか、本回は右の人々の外に堀部勝四郎、森本善七、白石半助、平手徳右衛門、恩田長翼等諸氏は世話人として尽力せらるゝへしと云。



# 宝物開帳〔明治25年6月6日 第一〇九号〕

本月十二日より七日間、当市袋町善林寺に於て廿四輩越後国府光源寺伝来の法宝物見真大師御木像其他数種開帳有之由。

# 仏教少年教育会〔明治25年6月6日 第一〇九号〕

当市蒲焼町通なる真光寺内の同会にては、昨五日午前より演説会を開かれ教育に就て数氏の演説あり。当日の参会者は重に少年男女及父兄等にて最と盛会なりき。

# 広告〔明治25年6月6日 第一〇九号〕

来る七日午後七時より於下長者町講義所

般若心経 山内宗弘師

心地観経 水野道秀師

来る十二日午後七時より全上

考 論 山田祖学師

唯 識 中村智眼師

愛知仏教会本部

# 大須観音堂起工式の概況〔明治25年6月13日 第一一〇号〕

来る九日、大須観音堂の起工式を挙げられし其概況を記さん、式場入口には一大花門を構へ、飾物荘厳等最と美麗になし。将に午後二時ならんとする頃、取持一同打揃ひ一の棒を境内中央に出

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（三）

し、次に二の棒を持出し、二本共に式場に着するや大工棟梁寺尾滝蔵を始め五十余名は装束にて式内に至ると、聽て住職滝実昇僧正及執事役僧等二十有余名は本堂より徐ろに同場に進み、先づ同僧正は密法を修せられ、其他一同は最と殊勝に読経され、右了ると同時に棟梁は起工の式を挙行せられたり。当日の拝観者は彼の焼跡なる空地も人を以て波を漂はす賑合にて、非常の雑踏を極めたり。尚同院より県庁及市役所へ出されし起工式執行の届書は、左の如し。

# 起工式執行届

当寺本堂再建のため、本月九日起工式執行候間、此段御届仕候也

名古屋市門前町宝生院住職

明治廿五年六月五日 権正僧正滝実昇

愛知県知事千田貞曉殿

# 広告〔明治25年6月13日 第一一〇号〕

来る十七日午後七時より於下長者町講義所

般若心経 山内宗弘師

心地観経 水野道秀師

来る廿二日午後七時より全上

孝 論 山田祖学師

維摩経 太田元遵師

愛知仏教会本部

**特別広告**〔明治25年6月20日 第一二一号〕

甘蔗普薫師 を聘し、来る七月二日より 因明 の講筵 を開く仍て会下長者町の講義所に於て 員諸君は午後正七時より御来聴相成度候。

愛知仏教会本部

**愛知仏教会の講義**〔明治25年6月20日 第一二一号〕

来る七月二日より、本紙特別広告の如く甘蔗普薫師を聘して因明学を講ぜらるる由、本紙広告欄に記せる如く、来る廿二日午後七時より長者町全会講義所に於て山内宗弘師の般若心経、武田実伝氏の原人論の講義あり。社員水野も出席、心地経を観講する筈なりといふ。

**甘蔗普薫師来る**〔明治25年6月20日 第一二一号〕

真宗にて有名なる越前の同師は、当市へ来名の上は菅原町浄教寺に於て、来る七月一日より七日間説教を開筵せらるゝ由、何れ例年の如く盛況を極めらるゝ事なるべし。

**幻灯演説**〔明治25年6月20日 第一二一号〕

本日午後七時より広告の如く、横超会員と共に愛知仏教会より開会せらる。

**野々部至遊師巡錫**〔明治25年6月20日 第一二一号〕

鳥取県伯耆国河村郡小河内村曹洞宗善唱寺玄瑞氏は、今夏江湖会を修行せられ、其西堂には野々部氏を請せられたれば、既に雲衲は去月、全地へ発錫せしか、来る廿九日より授戒会及五則法会等を執行せらるゝ由にて、全氏は来る廿二日発錫、全地方へ赴かるる筈なりと云ふ。

**聖徳講社の説教**〔明治25年6月20日 第一二一号〕

来る廿一日廿二日の両日、当市橋詰町慶栄寺に於て開会さるゝ同講には、真宗大谷派にて有名なる牧野神爽師が出席して説教を営まらるゝ由、尚同日は同講の取締森弥七氏より貧民救助の為白米十俵を施与さるゝ由。

**愛知仏教会の講義**〔明治25年6月27日 第一二二号〕

同会下長者町の講義所にては、予定の通り去る二十二日講義を開かれしが、尚ほ来月二日よりは愈甘蔗普薫氏が出席の上にて因明学、若くは金七十論の講義を開かるゝと云、又来る二十七日午後七時より同所に於て太田元遵師、維摩経、山田祖学師の孝論等の講義を催さるゝ筈なりと云ふ。

**全会の派出演説**〔明治25年6月27日 第一二二号〕

全会の派出演説は、過る二十三日午後七時より当市内屋敷町蛭子座に於て、全町の長谷川氏の發起にて開会せられしが、同夜は大

田慈幹、佐々木祐繼、広間隆円師等にて社員水野も出席せしが、全夜は雨天なりしも随分に盛会なりきといふ。

#### 私立曹洞教会の組織〔明治25年6月27日 第一一二号〕

当市曹洞宗中学林教師山内宗弘、山田祖学、社員水野等が發起として、当市内に見出しの如き私立団体を組織し、専ら同宗の宗義安心を同宗の信徒に注入せるの目的にて、先づ市内古渡伝昌寺、宝町禅芳寺、花車町光明寺、七小町普蔵寺に会場を設け、毎月二回宛同宗専門の仏教を講義せらるゝ筈にて漸次同会の發達に従ひ、全宗碩徳なる白鳥鼎三老師の出席をも請ふ筈なりと云ふ。

#### 大般若經転読〔明治25年6月27日 第一一二号〕

当市松山町安斉院に於て、七月一日午後一時より同法会を催さるゝ由にて、全日は住職野々部師が旅行中にて、社員水野が代勤説教をも修行せる筈なりと云ふ。

#### 故土方慶宣師法会〔明治25年6月27日 第一一二号〕

師は当市東桜町浄念寺の令嗣にして、頗る穎悟俊達の氣風あり。夙に牧山佐藤先生の門にあり、亦愛知英語学校に在て嶄然秀逸の学生なりしが、明治十四年秋十八年を一期として空く黄泉に赴かれしが、本年は其の十三年に相当せるとて、一昨二十五日全寺にて法会を修せられしが、当時同窓の学生たりとて社員水野も参席したりき。

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（三）

#### 鷹林冷生師〔明治25年6月27日 第一一二号〕

全師は曾て危篤の病症に罹り当市に療養中なりし事は報導せしか、師は爾後病勢大に逐々快氣に向はれ、近日は全く平愈に達せられ、一兩日中に越本山へ帰錫せらるゝと云ふ。実に法門の爲め喜悅のことなり。亦全師の本師白鳥鼎三老師は八十余の高齡なるも、猶矍鑠として目下正法眼蔵及伝光録等の講義を怠り無く後進に授けをらるゝと云ふ。

#### 真宗講話会東部発会式の盛況〔明治25年6月27日 第一一二号〕

過る廿三日、当市鍋屋町円明寺に於て全会東部発会式を挙げ、演説並に懇信会を催ほしたりしが、当日は幸ひ天氣快晴せしかば、定刻前より聴衆滿堂立錫の余地なく、同寺の書院亦人を以て滿され、混雑の余り轟然の響と共に書院脱椽し、一時は大震災に比すべきの騒なりが、幸にして負傷者はなかりしと。斯くて奏樂に連れて最初東部々長佐藤半兵衛君出席開筵の趣意を演説せられ、次に牧野教師臨場せらるゝや幹事惣代加藤善八君及び會員惣代山崎隆次郎君、小原与三郎君等祝文を朗読せられ以て終式とす。次に教師の講話となり、阿弥陀經を本文に就て平易に講述せられたるに聴衆一同満足の体なりし、已に講話の將に了らんとするに臨て、幹事水谷佐助君は一般聴衆に告て、天皇陛下万歳を三唱せられたるに一同之を和し佳氣霽然として最目出度かりし、右にて全く散会を告げ、引続き広書院に於て懇信会を開き、席上富田忠利君の無量寿と題する演説、其他数名交るゝの高説ありて談論笑

声各々歎を尽して全く散会せしは、午後九時頃なりき。

### 特別広告〔明治25年7月4日 第一一三号〕

愛知仏教会講義 下長者町講義所に於て 甘蔗普薫師 を聘し 金七十

論 を講ず 会員諸氏  
御参聴相成度候

### 甘蔗普薫師の講義〔明治25年7月4日 第一一三号〕

甘蔗普薫師の講義は別項広告の如く、去る二日より開会されしに聴衆は殆んど溢れん斗りの盛況にて、講本は金七十論、開講時間は同師都合にて午後四時よりと改めたり。

### 大光院の後〔明治25年7月4日 第一一三号〕

当市曹洞宗大光院後住は先住竜跳師遷化以来久しく無住なりしが、社員水野及び山田正道氏が種々旋幹し、先住か遺書の第二筆たりし西春日井郡九ノ坪村平田寺住職竜桑巖氏が其の後を嗣かるゝ事に決定したり。

### 国風会の講筵〔明治25年7月4日 第一一三号〕

昨日当市宮出町永安寺にて開会せし同会へは、国学校々長大島為足氏及び浅野三竜氏等出席せられ、其他数名の講述あり。又小笠原国豊氏が門弟を率ゐて同流の礼式を行はれ、松尾宗匠の茶道講義あり。又中村元亮も建国の異同なる一説を述べて閉会せしが、

来聴者には師団の高等官及び県官裁判官あり。紳商あり新聞記者あり、其他国学校生徒及び育英学校生徒数百名にて、当日は唱歌及び大和楽を奏して近年になき盛況にてありき。

### 広告〔明治25年7月4日 第一一三号〕

甘蔗普薫師 当寺に於て去る  
一日より説教

名古屋市菅原町

浄教寺

### 白鳥山主の曹洞宗分非に関する建言書〔明治25年7月11日 第一一四号〕

当県熱田町白鳥山主大島天珠師は、宗内の紛争に就て深く憂る処あり。越本山出張所福山監院へ向け左の建言書を呈出せられ、尚近々上京して充分の意見を陳述して、以て飽まで両本山協和の策を實行せんと欲せらるゝよし。其建言書は左の如し

一 宗制第一号両本山盟約第九条の明文を實行して、速に宗内紛争の跡を絶滅し両山一体の協和を遠大に保持するの籌策を要す。

一 前条時止むを得ず断行し能はざるときには、両山盟約第五条議員召集云云并に支局取締格地寺院等に不抱、各府県より平素夫々意見を懷抱する有志者、或県は二三名或県は五六名御局の見込に依り、之を召集し以て宗門安寧の進路を公議に付し、処決せしめんことを要す。

但し宗門の爲め、御山の爲め、目今非常の際己身を顧みず路資等自弁たる可し。若し此召集に応せざる者は其意に任せ、応ずる者は眞の護法家と見做し、来会者を以て一決するも妨げなき事。

一越山森田禪師は東議西論紛擾百出の時に当り、超然たる手段無んはある可からず。俗務の事務取扱の任を放擲して他に一任し、速に越山へ帰駕し接衆三昧、従来の道德層一層し、反對派の者をして自ら失望し、其徳風に帰嚮せしめんこと余か深く希望する所なり。

愛知県尾張国愛知郡熱田町字白鳥

法持寺住職

明治廿五年六月三十日一建言者一大島天珠印

同県同国同郡同町字旗屋全隆寺住職

一表同意一大亀万丈印

同県同国同郡同町字白鳥福重寺住職

一同 一三輪悦道印

同所 妙覚寺住職

一同 一堀本盧雲印

外三十二名連署

**哲学者来る**〔明治25年7月11日 第二一四号〕

新潟県人藤宮規平氏は曾て医を業とし、後基督教に入り、大に悟る所あり。翻然綜合宗教論を唱へ、哲理を講究し大に得る所あり

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教(三)

て諸国を漫遊の途次、過日来名、袋町の延命院に滞留中なるか、本日午後二時より門前町阿弥陀寺に於て国家的道德の方針、東西両洋文明の原理、綜合哲学談等を弁せらるゝ由。又氏が著書の綜合宗教論中の一節は、頃日海外宣教会の雑誌中に採録されしを以て一閱せしに、中卓々論高識能く時弊を穿ち、真正に愛国の志氣を發揚するに足るのみならず哲理上我邦の道德を論せられし等、中々価値ある著なれば、殊に其の人に直接して其意を聞かば定めて得る所も少なからざるべきが傍聴も随意との事なれば、定めて盛会ならんと思はるゝなり。

**愛知仏教会の講義**〔明治25年7月11日 第二一四号〕

過日来、金七十論を講せられし甘蔗師は、来る廿日より再び下長者町の講義所にて開筵の筈なり。

**野々部至遊師**〔明治25年7月11日 第二一四号〕

鳥取県へ布教中なりし全師は、昨日帰寺せられたり。依て十五日には、杉村久国寺に於て月次授戒会を修し、全十七日には安斉院に於て懺摩法会を修せらるゝ筈なりと云。

**愛知仏教会の講義**〔明治25年7月18日 第二一五号〕

来る十九日より再び来名せらるべき甘蔗普薫師を聘して、下長者町の講義所に於て前講に引き続き、金七十論を講せらるゝ由。

**仏籍講義**〔明治25年7月18日 第一一五号〕

去る十六日より当市白川町養林寺に於て浄土宗愛知支校の教師桑門秀我師を請し、午前六時より撰択集及び原人論を講述せらるゝに付、社員中にも日々聴講する者あるが、其聴者は頗る多く、又師も熱心に能く学理と教義を講述せらるゝに付、一同喜悅して拝聴し居らるゝ由。

**薄命者死亡**〔明治25年7月18日 第一一五号〕

当市宝町坪井ユカは、曾て本紙にも記載せし如く、難病子宮癌に罹り、過般來愛知仏教会の施療薬を受け居りしも医業其の効なく、七十五年を一期として頃日死亡せしが、右の主任医たりし愛知仏教会の依嘱医師瀬尾順節氏は非常に懇切を尽されしを以て、ユカも満悅して死亡したりし由。

**慈悲会演説**〔明治25年7月18日 第一一五号〕

当市日置地方有志者の組織に係る同会は、去る十五日当市古郷町真宗敬円寺に於て定期演説を挙行せられたり。出席弁士には永井、及社員水野等なりしが、同会は更に定期講義会を催さる由にて、是亦水野が西谷名目を講ずる筈なりと。

**講義会**〔明治25年7月18日 第一一五号〕

愛知仏教会講義所にて昨十七日、野々部至遊師は修証義、広間隆円師は正信偈を講せられたり。

**広告**〔明治25年7月18日 第一一五号〕

父順誓儀葬送之際ハ炎暑ノ砌、遠路御会葬被成下難有奉鳴謝候、就而ハ尊邸ニ罷出一々御礼可申述筈ニ候得共、何分取込中ニテ貴名伺洩有之哉モ難計存候俟、乍略儀新紙ヲ以テ御礼申上候

名古屋市蒲焼町

善導寺住職 中川泰道

**講義所**〔明治25年7月25日 第一一六号〕

当市長者町愛知仏教会講義所に於ては例月の如く、二十七日午後七時より太田元遵師、山田祖学師が講義を開筵せらるゝ筈なり。

**甘蔗普薫師**〔明治25年7月25日 第一一六号〕

当市菅原町浄教寺に於て布教中なりし全師は、昨日限り閉場せられたり。且全師が開講中なりし金七十論は、秋際來名の節引続き講義せらるゝ事なりと云ふ。

**師恩を謝せんと袈裟を贈る**〔明治25年8月1日 第一一七号〕

前号の広告欄にもありし如く、当市なる大谷派普通学校の仏教学教授真宗大派五等学師大江琢成氏は、久しく同校に在て宗余乗の教授を担当せられしか、故郷なる豊後とは数百里を隔つるのみならず、住職以來十八ヶ年間自坊を他に依嘱し置くは本意にも非ざるのみならず、檀信徒が帰寺を促す事の急切なるより不得止同校を辞して、去る廿五日帰郷せられしを以て、兼て教授の恩顧を受

けたる同校生徒一同より前津広見の見晴亭に送別会を開き、尚輪袈裟一領を永く記念の爲にとて贈りたるよし。師弟の情宜左もありたき事共なり。

#### 山田宮一郎氏の帰国〔明治25年8月1日 第一一七号〕

曾て当市大谷派普通学校の教授にてありし同氏は、其の後朝鮮国仁川大谷派別院付属小学校の教授として渡韓せられしが、今回実母病氣の爲帰朝せられたる由。

#### 基督教者の懺悔〔明治25年8月1日 第一一七号〕

過般、当市菅原町浄教寺に於て布教中、愛知仏教会の招きに応じ金七十諭等を講述されし甘蔗普薫氏の教化により、基督教の非理なるを悟り、既往を懺悔して仏門に帰入したりと謂ふ近來の一美談は、当市和泉町武山有方の一女ハル子（廿年）にぞある。ハル子は生来伶俐の性なるより夫婦の寵愛も一方ならず、幼少の頃より糸竹の道は愚か、万づの学技を尋常ならで高等までも教へんと前年東京なる某基督教の女学校に入学せしめしが悪縁となり、遂に邪道に引込まれ、今は無二の信者となりけるより夫婦の悲歎此の上なきも、何分相当の学識を有する所より中々父母の御勸化位は耳にもせざるのみならず。却て父母を邪道に誘はんとせしより、夫婦は幸ひ甘蔗氏の法席に列し、聞法隨喜の余り件の一女ハル子の事を語りしより去らは、寓所に伴ひ来るべし。宜しく勸化々導せんとの詞に従ひ、遂に氏か居に伴ひしが、僅々二席の法

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（三）

話にて全く旧來信仰せし邪教の非を悟り、今は仏教の信者となり、左の二首を詠して師か厚恩を謝したりと社員水野が同氏を訪ひし時の物語りの俚、偕其の歌は、

暗き世に迷ひし賤にありしかと

君の光りに道を得にけり

数ならぬ賤のこの身も計り得ず

君の教にこゝろつきけり

#### 曹洞宗中学林修了証書授与式〔明治25年8月1日 第一一七号〕

一昨々日、当市なる同林に於て同式を挙行されしが、編者も招請に応じ参列せしに、式は午前十一時より始まり、先づ鐘聲に応じ招待員並に生徒一同着席々定まりて誦經（導師万松寺方丈）、終て監理生駒円之氏より一々証書を授与され、次に学監竜桑巖氏より授賞者へ賞典を与へ、終て生駒氏の演説、次に辻本玉乗外一氏の祝詞、次に教員山田祖学、佐藤猛七氏の祝詞、次に山内宗弘、山本竹太郎氏の演説、次に学監水野道秀氏の祝文等ありしが、当日の式場は万松寺の本堂にして右方に招待員席を設け、中央に頗る大なる花瓶に挿花あり。殊に参列者一同を感せしめしは、式中の嚴肅なりし事と其の順序の整へるとにて式終て一同へ清齋を供せられしが、当日招ぎに応せられしは尾三両国にある各分局長等にて凡四五十名にてありき、其の修了者及び授賞者の姓名は左の如し

中学林二年級修了

〇〇鈴木敬嶽

森 泰隣

舟橋夫圭

竹内黙音

同 一年級同

近藤道賢

西山法純

谷口徳成

小学林全科卒業

石田克明

桜井耕雲

梶田松雲

斉藤智昇

中西宏道

虫賀玄亮

同二年級修了

〇〇荒谷心光

〇〇水谷良禪

村田靈道

児塚大旬

鬼頭偉雲

横井鉄門

同二年級同

〇〇丹羽月心

〇〇猪子雷道

〇石塚大溪

〇梅本石留

〇落合礼三

加藤良宗

以上の外、落第生四名、事故不授験十二名なりしか、右の姓名中  
 〇〇は一等賞華嚴原人論、〇は二等賞因明八証理論を受けられし  
 人々なり。又学監の祝詞は左の如し。

茲に明治廿五年七月廿九日、本林付属小学林学生全科卒業証及  
 本林各級学年度修了証状授与の大式典を挙行するに当て、本県  
 下各分局幹事諸君の参列を請ひ、又本林監理閣下は親しく其証

書を授与せらるゝに際せり。是本林学生諸氏の光荣最愛良辰と  
 して永く紀念を要するの吉祥日也。一不肖一童桑嶺、水野道  
 秀、過て本県多数寺院の興望に依り学監の職を汚し、則ち学務  
 機関の運転手に当れり。夙夜黽勉爰に従事し斯布伝道の要素た  
 る学務機関運転の責任に過誤なからん事を顧慮して止まざるな  
 り。然れども本学年度は、本林に於て最も不幸を感じるの極点  
 にして、則ち客年大震災に罹り、本林建築物亦非常の災害を蒙  
 り一時閉鎖の場合に至りしも、暫時にして補修を加へ、再び開  
 始するを得たり。然れども猶本県寺院の震災の為め殿堂破壊に  
 属するも亦尠からず。為めに本林経済に一大変動を醸し、亦近  
 来両山軋轢の為本県寺院の意向四分五裂、恰も乱麻の紛々たる  
 が如く、為に本林の経済常に円滑を欠くの虞ありしが、本県寺  
 院の布教興学に熱心なる。此等の諸事情を排却し協同一致し、  
 本林の拡張を図らるゝ事となれり。而して本林教員諸士の精勵  
 なる四期一学年間、恰も一日の如く桔据此に屆め、学生又勉勵  
 し能く復雜の学科を修了するを得たり。左れは曩に不幸を感じ  
 し諸事情芟除して、今日は最大幸福なる結果を獲得したるは本  
 林の為慶賀に堪へざるなり。蓋し優勝劣敗は生存競争社会の通  
 則なり。学生諸氏は区々たる利名の街に彷徨せず。勇猛精進の  
 進前遼遠たる学路を究明し、大に布教伝道の根基を鞏固せんこ  
 とを希望す。聊か蕪詞述て祝詞とす。

学 監

竜 桑 嶺



水野道秀

慈悲会の講義〔明治25年8月1日 第一一七号〕

当市日置地方有志者の組織に係る全会は、毎月講義会をも催さるゝ由は既に前々号に報導せしが、弥八月一日午後七時、其の本部古郷町敬円寺に於て社員水野が出席、西谷名目を講する筈なり。

大光院新住職の晋院〔明治25年8月1日 第一一七号〕

全住職竜桑巖師は、弥本日九ノ坪村平田寺より移転し晋院せらるゝといふ。最も晋院大法式は多分九月頃挙行せらるゝ計画なる由。

広告〔明治25年8月1日 第一一七号〕

仏教講義 当市下長者町講義所に於て、来る二日午後七時より野々部至遊師、修証義、広間隆円師、正信偈を講せらるゝ筈なり。

広告〔明治25年8月1日 第一一七号〕

八月一日、午後七時より古郷町敬円寺にて西谷名目講義

講師水野道秀師

慈悲会本部

広告〔明治25年8月1日 第一一七号〕

生徒募集広告

本校初級 及甲乙 各級に 欠員あり 入学志願者は来る八月廿五日迄に乙科 両科共 入学願書を差出さば、翌廿六日より試験を挙行し、学力に應じ相当の級に 入学を許す。

下茶屋町 大谷派普通学校

書籍の寄付〔明治25年8月8日 第一一八号〕

愛知郡熱田町に仏教育家として有名なる青木三余居士は、中島弘毅氏の著述にして居士が傍科を加へられたる印度古代哲学と題する小冊子十部を愛知仏教会本部へ寄付せられたりと云ふ。

広告〔明治25年8月8日 第一一八号〕

来る十一日午後三時より

仏教大演説会

弁士中村智眼師 大津町光円寺内  
外数名

横超会に於て

**広告**〔明治25年8月8日 第一一八号〕

曹洞宗 分離 非分離 ニ付キ、僧俗ニ承陽大師ノ中、其祖遺訓ヲ破  
両本山 分離 非分離 ル者有之、居士ハ分離論ノ非ナル事ヲ看破  
シ、今回県下各地ヲ遊説ス。同感ノ諸士ハ奮テ賛シ、反対  
者及ヒ意義不正ノ者ハ居士ノ所在ニ就テ質問又ハ討論セヨ。

宝町二丁 藤井東洋居士

**真宗講話会秋季大会**〔明治25年8月15日 第一一九号〕

全会は来る廿四日午後二時より、当市押切町養照寺内全会本部に於て大日本高僧小栗栖香頂老師及び法雨協会の萩倉耕造、丹羽香含の諸氏を招聘して、秋季大講話会を開くとの事にて、当日は小栗栖老師が嘗て本年三月二十三日、東京福沢諭吉先生の乞に応して先生の邸に於て説教せられたる節、福沢先生が十三ヶ条の質問をせられたる顛末等を演述せらるゝとの事なれば、有縁の信徒は其積りにて御参聴あれ。因に記す。全日は音楽執行及千秋流千松庵社中より活花の献備もあるとの事なれば、定めて盛会なるべし。当翌廿五日は午前七時、午後は二時より右養照寺に於て老師が説教をもなさるゝとの事なり。

**仏教少年教育会例会講話**〔明治25年8月15日 第一一九号〕

同会にては、去る十四日橘町崇覚寺に於て水谷魁星、藤岡勝二及広間隆円の諸氏か出席され講話を開会せられしに、頗る盛会にてありしと云。

又 来る廿一日、菅原町二丁目浄教寺に於て午前八時より同会の

臨時講話会を催さるゝ由。

**瀬尾音次郎氏の賞与**〔明治25年8月15日 第一一九号〕

同氏は当市大谷派普通学校に在て、創立以来教授に尽力されしも都合にて辞職されしに付、過日同派本山より金若干円と外に震災に付き、寄付金せし賞として教示章一部を付与せらる。

**仏教演説会**〔明治25年8月15日 第一一九号〕

現今京都真宗大学寮に留学中なる尾張学生諸氏は目下夏期休業に付、帰省中なるを幸に、来る廿一日午後三時より当市菅原町珉光院に於て仏教演説会を開く由なるが、当日の弁士は恒川応昇、住田知見、高橋教導、尾中泰中、島順道、水谷魁曜、黒部堯善の諸氏なり。

**広告**〔明治25年8月15日 第一一九号〕

九月十六七両日

半僧坊 大祭典執行  
大権現

広小路半僧坊

出張所 二於  
テ

**革新同盟会の現況**〔明治25年8月22日 第二二〇号〕

能山独立を首唱せる同会の詰員は、目下当市の伊藤寛典氏外十二

名の由なるが、孰れも旧盆には一週日位の帰国を乞はれしも、這回の事業は中々容易の事に非されば、是非共目的を達する迄は歸寺を見合せ呉との事にて、一同も其の議に同意し、必ず成功せざれば帰国もすまじと申居らるゝ由。

### 同志会の組織〔明治25年8月22日 第二二〇号〕

曹洞宗兩本山の紛議に關し、当市なる同宗一部の寺院住職は非分離同志会を組織し、之を東京の支部とし、過る十七日より当市宝町禪芳寺を以て事務所とし、既に夫々役員を定め規則を設け、亦各寺院より義捐金を募集し盛に主義擴張の運動を催さるゝ由なるが、今全一部の人々の意見なりと云ふを聞くに、過般能本山が分離独立を唱導せし所以は、宗内の弊害を芟除する迄にて分離は其目的にあらずと云ひ、又真宗兩派の如く単に分派せる迄なりと云ひしも此頃に至り、能嶽雜誌の論説には、同宗の祖師承陽大師は曹洞宗の開祖にあらず、既に立宗開教を異にしたる能本山は瑩山禪師こそ能山派曹洞宗の開祖なれと論せしを読み、流石に一驚を喫し、斯くては今日迄宗祖と仰きし承陽大師を宗祖にあらずと迄宣言せる党派は、実に恐ろしき破壊的党派なきなりとて、分離派を脱し更に同志会を組織されたるものなりといふ。

### 白鳥鼎三師〔明治25年8月22日 第二二〇号〕

全師は全国曹洞宗中最も高老の碩德にて、目下八十余の高齡なるも日々碧巖録、從容録を提唱し、後進策励に余念なきとの事は既

に報導せしが、今亦聞く所に依れば、全師は日頃全宗の紛擾を聞き、予にして十年若からしめは充分に宗門の爲め尽すべきも、今斯く老いたりとかこち居らるゝ由を聞き、今回同志会の組織に際し、全師に支部長たらんことを請ひしに、師は潸然として感涙を催し、予は過日來宗内の紛擾を聞き慨然とし起ち宗祖大師の報恩の爲め、吾が宗門の爲め尽さんと思しかとも、身既に老境に至り、死に瀕し、又為す能はざる身となりしも、今諸氏が宗祖の爲めに尽さんとして団体を組織し、予に部長を望まるゝ以上は躬既に如斯なりと雖も、予が名儀を以て義旗を挙げて益ありとせられなば、予は啻に辞せざるのみにあらず。斯く老境の身となりたれば、唯吾が名なりとも宗祖の御恩を報する一助となると思へば美に歡喜に堪へざるなり。故に若しも演説にても催さるゝなれば、予は躬のあらん限り、進んで一席の任に当らんとて、懇々宗門伝來の由緒等を語られし由にて、訪問せし同志会員も共に涙に咽ひて別れたりと云ふ。

### 三県水害死亡者の法会〔明治25年8月22日 第二二〇号〕

愛知仏教会の催しに係る全会は、予期の如く一昨廿日、当市大光院にて執行せられたり。扱て全日は、門前に大仏旗を交叉し、又大標札を掲げ、本堂正面に三県水害死亡者諸精霊と書したる靈牌を安置し、諸種の供物を奉供し其の前面に一丈五尺余の角大塔婆を立てたり。聽て午後一時に至り、各宗諸寺院続々参集せられしを以て、法会掛りは各宗を二大部分に分ちを阿弥陀經一を普門品

とし、抽籤を以て前後を定め、則ち殿鐘三会を鳴し阿弥陀経部の各宗一同本堂に整列して誦経あり。了て梵鐘一会普門品部各宗威儀整肅として前の如く列坐して誦経あり。了て富永周喜氏牌前に進み、追吊文を朗読し了て散堂。夫より参詣者一同へ供物を配与し、又各宗寺院方へ茶菓の饗応あり。席上役員総代として社員水野が挨拶の辞を述べ、且つ将来仏教会の運動には各位一層の尽力あらんことを懇請すとの意を述べ、午後四時全く散会せられたりしか、折しも同日は九十余度の酷暑なりしにも掲らす、多数寺院方の参集せられたるは実に感服の至りなりき、其の出席寺院方は左の如し。

徳源寺、慈眼院、永安寺、円教寺、白林寺、松平実善、大須政良、野口実為、平賀法竜、大光院、栄国寺、極楽寺、徳林寺、玉泉院、法然寺、法応寺、阿弥陀寺、東林寺、高岡亮音、光明院、禅隆寺、福泉寺、宝泉寺、光真寺、政秀寺、総見寺、泰増寺、光勝院、法華寺、乾徳寺、善昌寺、竜梅院、周泉寺、興善寺、清安寺、梅香寺、陽秀院、海福寺、勝川地蔵寺、含笑寺、福寿院、照運寺、万松寺、鵜飼祖幾、広間隆円、山田祖学、富永周喜、山内宗弘、水野道秀、其の他各寺の徒弟、大光院の雲衲、無慮八十余名と見受たり。其の吊文は十方法界、三宝至聖来臨、智見照明、伏惟三界無安、猶如火宅、六凡四生群類、何物恒存、金剛不壊妙体、遂隠双林、梵天深禪所栖、不免劫煙、何況有待人界、本月本日、我仏教会諸氏、厳浄道場、捧幡蓋供香灯、各宗高僧、請現前一会衆、張大法会、兵庫岡山徳島、三県罹災、慰溺死者精霊、仰

願三宝、復奚哀愍救護、倘然靈也、迢々降受法味、酬功德至、無上涅槃法利、追悼一札、盖以如件頓首、沙門 富 永 周 喜

#### 同志会演説概況〔明治25年8月29日 第二二二号〕

過般より当市宝町禪芳寺に組織せられたる同志会は、去る廿五日午後二時より門前町大光院に於て大演説会を催されたり。全日非分離主義の寺院住職四十余名参集し、白鳥鼎三老師の導師にて承陽大師円明国師へ誦経あり。了て水野蘭溪（開会の旨趣を述べ）、次に富田祥瑞、藤井東洋、栗木確伝諸氏交演壇に登り雄弁を振ひ、分離の非なるを述べられたり。全日は満堂立錫の地もなき程の盛会なりしが、社員水野は客員として一席の演説をなしたりき。

#### 土岐善静氏再び来名すへし〔明治25年8月29日 第二二二号〕

曾て当市なる国学校長大島為足氏を訪ひ、且仏教婦人会の演説に出張されし同氏は、来月彼岸後再び神道に有名な深川照阿翁と共に来名の筈なり。

#### 真宗講話会の秋期大会〔明治25年8月29日 第二二二号〕

真宗講話会の秋期大会の盛況は、既に当市の各新聞紙上に於て報導されしを以て茲に略すと雖も、当日小栗栖学師が弁せられし彼の福沢諭吉氏と閑談されしと謂ふ大意は、第一には般若の事、第二には涅槃の事、第三七百年前と後との布教、第四は上流社会と

中等以下の社会の布教の事等なりし由、又当日、同会本部長富田政次郎の朗読されし小栗栖師歓迎辞は左の如し。

富嶽高しと雖も焉ぞ加かむ、琵琶湖深しと雖も焉ぞ加かむ、老師が英明夙に宇内に冠たるに非ずや。今茲八月念四、法駕を我会に枉げられ、師が德音を拝するを得たり。我曹歓天喜地手の舞足の踏む処を知らず、一言を述べて歓迎の辞とす。

### 服部氏の返書〔明治25年8月29日 第二二二号〕

在東京の曹洞宗分離派の某氏より、当市下長者町なる同宗の信者服部卯助氏の元へ、去る十九日西京にて発行せし「京都」新聞中に、曹洞宗の分不に就てと題したる左る記事ある者一葉を送られしに付、同氏の令息某氏の直ちに分離の不可なる事を痛論したる一編の返書を某氏に送り、尚ほ其の案文を非分離派の教海指針に投せられたりと云ふ。

### 浄土宗学愛知支校〔明治25年8月29日 第二二二号〕

同校は学生殊の外増員する為め校舎頗る狭隘を告げ、不得止今回名古屋市筒井町建中寺山内九百余坪を敷地として教場諸寮舎三百余坪を新築することとなり、本学年始業までには落成の見込にて、その工費凡そ七百円なりと云ふ。

### 大谷派普通学校の始業〔明治25年8月29日 第二二二号〕

目下秋冷に向ひしを以て、各学校共に逐々暑中の休暇を終り始業

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（三）

せらるゝ事なるが、当市下茶屋町の同校にても、過日来新入学生の試験中なりしが、愈々新入生を併せて、来る一日より一層学課目等を改正して始業せらるゝ由。

### 報告〔明治25年9月5日 第二二三号〕

愛知仏教会報告

般若心経略疏講義

講師 神谷大周師

右は本月下旬を以て開講すべく、既に師の承諾を得候に付、孰れ時日及び場所等は決定の上更に報告すへし。

愛知仏教会本部

### 盆施餓鬼彙報〔明治25年9月5日 第二二三号〕

当市各宗寺院にては、何れも例年の如く陰曆にて盂蘭盆会精霊祭を催し、施餓鬼法会も執行せらるゝ事にて、則ち今五日（旧十五日）には、当市内にて最も参詣者の群集するは下茶屋町東輪寺施餓鬼会、鍋屋町大光寺施餓鬼会及出来町五百羅漢寺施餓鬼会、白川町十王堂の施餓鬼会、南小川町宋吉寺十王堂の施餓鬼会なるが、又翌六日には南小川町松徳院施餓鬼会、七日には松山町安齊院、七小町普亀寺、十日には松山町梅屋寺施餓鬼会にて、何れも説教亦は演説を催さるゝと云ん。

**杉本瑞泉寺主の去就**〔明治25年9月5日 第一二三号〕

当国鳴海瑞泉寺の方丈なる杉本道山師は、曹洞宗能山の直末なる故を以て、曩に同山分離派より愛知県録所副長を命ぜられしも、分離の事業には未だ見醒しき運動もなく常に変らず二三十の雲衲を率ひて各所に布教旁々後進の薫陶に尽力せられ居りしが、今回断然右の副長を辞し、且つ一端能山に差出したる分離宣言の請書をも取消を乞ひ、今は純然たる非分離論者となられしか、去る廿九日越山より同山の後堂に任せられしを以て、当秋よりは同山に登り専ら祖廟に奉仕せらるべしと云。因に記す、同氏が断然分離派を脱したりと云ふ原因は、重に分離党が説く所の能山の瑩祖は承陽大師と立教開宗の旨を異にせると謂ふ点より、斯くは初志を翻して茲に及ばれたる者なりと云。

**神谷大周師の来名**〔明治25年9月5日 第一二三号〕

師は本月下旬、当市尾頭の雲心寺の請に応し来名せらるゝに付、予て期したる愛知仏教会の秋期大講義会に臨場を乞はれしに、師は一昨日社員水野の元へ右承諾の旨を通ぜられしと云。

**真宗本派巡教使**〔明治25年9月5日 第一二三号〕

藤里順乗師は、去る一日当市へ出張せられ、本日より西別院に於て説教を開筵せられ、其の時間外毎朝八時より十時迄菅原町浄教寺に於て、来る八日より四日間浄教寺と同刻東袋町教泉寺に於て、又十一日午後二時より十二日初夜迄鍋屋町教順寺にて、何れ

も同師を聘し説教開筵有之由。

**特別広告**〔明治25年9月12日 第一二三号〕

般若心経略疏講義

講師 神谷大周師

右は本月下旬を以て開講すべく、既に師の承諾を得候に付、孰れ時日及び場所等は決定の上更に報告すへし。

愛知仏教会本部

**施餓鬼**〔明治25年9月12日 第一二三号〕

本日は松山町含笑寺、明日は同町聚福院、十四日は矢場町地藏及び松山町の就梅院、南小川町の長全寺、宮出町の永安寺等なり。

**法宝物虫干**〔明治25年9月12日 第一二三号〕

来る十四日は盂蘭盆に相当するを以て、例年の如く当市菅原町興善寺に於て聖徳太子の尊像、恵灯大師の御遺物等を始め種々なる法宝物の拝覧を諸人に許さるゝ由なれば、定めて当日は群集の参詣ならん。又飯田町の養念寺、其他の各寺も同様、当日は虫干を行はるゝ由。

- 日野知恩院主は目下兵庫県巡教中なる由。
- 本派本願寺主の病痾も逐々平愈のよし也。
- 由利天竜寺主は去る二日東上せられたり。
- 原坦山師の後は学士会員にて当分見合す。

○渥美大派執事は東上のところ本日頃帰山。  
 ○岩村日轟氏は備前岡山地方を巡教せらる。  
 ○土岐善静氏は来名の筈なるも尚暫く延引。  
 ○吉水良祐師は清浄華院主に廿九日新任命。  
 ○北畠道竜氏は目下病痾に悩み居らるゝ由。  
 ○上田遍照僧正は目白に在て唯識論を講ず。  
 ○日野本派連枝は岐阜県へ巡教せられたり。

# 報告〔明治25年9月19日 第一二四号〕

愛知仏教会報告

本会本部ニ於テ来ル 震災死亡者 ノ為メ一 大法会 修行致候間、万  
 廿五日午後一時ヨリ 周年忌 障御繰合、右時  
 間御出頭誦經 各宗 御寺院諸師  
 被成下度、此段 各宗 へ謹告ス

愛知仏教会本部

# 広告〔明治25年9月19日 第一二四号〕

来ル二十五日午後正一時

震災死亡者 一周 大法会並ニ  
 年諱

法話開会神谷大周老師

関 無学禪師

# 神谷大周師の着名〔明治25年9月19日 第一二四号〕

全師は昨十八日、東京発第一列車にて着名せられたり。依て愛知

「能仁新報」よりみた名古屋の仏教（三）

仏教会を代表し、社員水野は停車場迄出迎ひたりしか、全師は直ちに熱田尾頭町雲心寺へ着せられ、本日より彼岸中全寺に於て法会及説教を挙行せらるゝ筈にて、因に尾張紡績会社職工にて、震災に死亡せし者の一周諱をも修行せらるゝ筈なりと云ふ。

# 広告〔明治25年9月19日 第一二四号〕

般若心経略疏講義

講師 神谷大周師

来ル二十六日午後二時ヨリ当市菅原町浄教寺ニ於テ開筵致候間、本会々員其他有志ノ諸彦御来聴可被下此段報告候也

愛知仏教会本部

# 伊藤覺典氏の返書〔明治25年9月19日 第一二四号〕

曾て能仁に、当市なる曹洞宗の信徒服部卯助氏より同宗の分非論に付き、一篇の意見を革新会の伊藤氏へ送られし由を記載せしが、去十五日の能嶽によれば、氏は直ちに服部氏へ向け更に弁駁の返書を送られし由。

# 吉祥講の御諱法会〔明治25年9月19日 第一二四号〕

当市曹洞宗信者の組織に係る全講社にては、来る廿日全宗の生駒円之師及中学林学生一同を請し、全宗の高祖承陽大師の御祥諱を修行せらるゝと云ふ。

**曹洞宗務紛議非分離大演説**〔明治25年9月19日 第一二四号〕

本県下非分離主義寺院にては一昨十七日、当市宝町禪芳寺に於て大集会を催し、全夜は東京より全宗の金山貫苗氏を聘し、其の他数名出席して大光院に於て大演説会を催されたりしか、満場立錫の地なく非常なる盛会なりき。

**森田悟由禪師**〔明治25年9月19日 第一二四号〕

森田悟由禪師は、来る二十一日東京発錫せられ、全夜当市大光院へ着せられ、二十二日全院に滞在の上越前へ赴かるゝと云ふ。

**報告**〔明治25年9月26日 第一二五号〕

愛知仏教会報告

謹 謝来会の聖衆

昨廿五日本会に於て修行せし震災死亡者追吊法要に随喜御参会被下難有会員一同に代り、茲に謹て奉鳴謝候

愛知仏教会本部

**広告**〔明治25年9月26日 第一二五号〕

般若心経略疏講義

講師 神谷大周師

九月二十六日午後二時ヨリ当市菅原町浄教寺ニ於テ開筵致候間、本会々員其他有志ノ諸彦御来聴可被下、此段報告候也

愛知仏教会本部

**上棟式と入仏会**〔明治25年9月26日 第一二五号〕

当市宝町曹洞宗禪芳寺内の金比羅は、其の昔大坂城の火防鎮守として祭られしも、同城陥落の後、当尾藩祖源敬公が其の霊像なるを聞き、当城の守護として迎へられしを慶長十九年故ありて藩士近松彦之丞へ賜り、遂に今の禪芳寺内へ安置されし者なる由。然るに昨年の震災にて右の堂宇の破損せしを修理し、来る十月一日稚子音楽にて上棟式並に入仏式を行はんと同町の有志は目下奔走中の由。

**川施餓鬼及法会**〔明治25年10月3日 第一二六号〕

来る四日例年の如く熱田町字田中本遠寺に於て水齊川施餓鬼大法会を修し、並に本年各地水害死亡者及び震災横死者の一周年忌等の追善会を営み、説教法話をも修行さるゝ由。就ては堀川通り橋々より八十余艘の講中乗込の船を出す由なれば、参詣の有志者は右舟に乗るも好都合なりと云。

**神谷大周教師**〔明治25年10月3日 第一二六号〕

神谷大周教師は本紙別項に記せる如く講義を完了の上、明四日より勢州桑名市浄土宗十念寺の請に応し、全日より三日間説教及講義を催され、又八日より一週間、本県知多郡大野常滑地方有志者の請聘に依り全地へ巡錫せられ、十六日当市へ帰錫、新尾頭町雲心寺にて尾張紡績会社職工の震災死亡者追吊大法会に臨席せられ、全時に全死亡者記念碑の建設式をも挙らるゝと云ふ。因に記



す右碑石は、一丈五尺余にして碑文も大周教師の編撰に係り、題字は徳川義礼侯の揮毫なる壮碑なりと云ふ。

### 中学林の御諱会〔明治25年10月3日 第二二六号〕

本県曹洞宗全学林は予記の如く、去る廿九日宗祖御祥諱を修し続て学生演説会を催されたりしか、全日は当市内全宗の重立たる檀方信徒へは特に招状を発せられし由にて、全日は門前に仏旗を翻し、講堂の面前には高張提灯を掲げ、内外の莊嚴能く整へり。午後一時職員及学生五十余名殿鐘の響きに応じて参列し、出班焼香、宣疏、楞嚴行道、回向了て法鼓一会にて演説となり、学生谷口徳成、森川泰麟、竹内黙音、鈴木敬嶽、職員山田祖学、社員水野等なりしが、目下全宗の演説会は何れも罵詈謗喧噪の演説のみなりしが、流石二党派以外にある学林の演説にして各弁士は熱心に学理、教理を審細に論述し、近来に無き静肅たる演説なりき。了て参聴者及来賓へは宗祖へ献備せし餅、饅頭等を配与し散会せられしは午後五時なりき。

### 関無学禅師〔明治25年10月3日 第二二六号〕

関無学禅師は、去る二十五日には当市研屋町伊藤豊七氏の宅にて一泊の上、直ちに二十六日第一列車にて岐阜県地方へ発錫せられたるに依り、愛知仏教会よりは見送りとして社員水野か笹島迄奉送せしが、全師は当方同地方の授戒会に臨まるゝ筈なりと云ふ。

### 愛知仏教会秋期講義の概況〔明治25年10月3日 第二二六号〕

予期の如く、去る廿六日より当市菅原町浄教寺に於て開講せられたる般若心経は、講師神谷大周教師の懇篤に全経の深遠高妙なる玄理をして、吾人が造次顛沛咫尺の間に接する事物に徴し、論議明晰聴者をして快豁洞通神氣を澄清せしめられぬに、日々満堂の参聴者にてありき。又仏教会講義所に於て、有志者の懇請にて職務に差支へざる様毎朝午前六時より八時迄起信論の講義を催され、引続き浄土宗尼僧の爲め同宗の祖師の御伝記を講せらる杯、大概午前には閑暇なき程のことなりしが、流石に師が碩学にして能く性、相、二宗の蘊奥を窮め、聴者の機根に相応せる巧妙無礙の弁才を以て幽玄の理諦を普通的に演繹せられしには、唯感服の外なかりし因に、今回全師が来名に就き、当市の信者は偉大の教益を受けられたり。

### 大高支部会定期会の概況〔明治25年10月3日 第二二六号〕

大高支部会定期会は、三十日明忠院にて催されたり。同日は長寿寺、東昌寺等の住職を始め会員の参聴百五十名余にて夜会に法話を挙行せられしが、社員水野は修証義第四節、五節を講話したりき。

### 広告〔明治25年10月3日 第二二六号〕

来る十月五日午後 時より当局（万松寺）に於て、震災死亡者一周諱及三県水害死亡者追吊大法会、続て大演説会挙行致し候条、

本宗信徒には参詣相成度此段報告す。

#### 曹洞宗務局

#### 山内宗弘氏信州に赴く〔明治25年10月10日 第二二七号〕

氏は当市万松寺内なる曹洞宗中学林の教授たりしが満期に付、同林を辞し藏経閲覧の志願なりしも、今回長野県同宗中学林の聘に応じて飯田へ向けて赴かれたり。

#### 法会と演説〔明治25年10月10日 第二二七号〕

本県東春日井郡吉根村曹洞宗観音寺住職伊藤頌応氏は、来る十七日宗祖承陽大師の御祥忌法会を営み、兼て虫供養施餓鬼を修し、昼間は説教を勤め、夜会には演説を挙行せらるる筈にて、中学林教師山田祖学、早川見竜二氏を聘せらるゝ由にて、社員水野も其の招きを受け出席せる筈なりと云。

#### 奉王館の設置〔明治25年10月10日 第二二七号〕

当市南小川町常德寺にて、富永周喜氏か館主となり標題の如き学館を設置し、専ら漢学を教授せらるゝ由。全氏は久しく伊勢の土居塾にある事数年、後ち日蓮宗学林に入り寺門の科を修められたりと云ふ。

#### 一柳葬具店〔明治25年10月10日 第二二七号〕

全商店主幾三郎氏は、本朝古来よりの神仏二教の葬儀作法取調方

に熱心し、既に神道の部は完了し、又仏教の部は曾て愛知仏教会の取調を経て稍完了せしか、近日之を活版に付し冊子と為し施与せんものと、更に愛知仏教会に請ふて各宗寺院葬儀に関する作法の取調方を依頼去れしと云ふ。

#### 愛知仏教会の講義所〔明治25年10月10日 第二二七号〕

同講義所は従来下長者町の外に、二三ヶ所に於て時々開会されしが、右様にては広き市内の会員に対し行き渡り兼ねる嫌なき能はずとて、今回愈々市内に十五ヶ所斗の講義所を設け、日々昼夜開講さるゝ筈にて、既に夫々へ設置の準備迄調ひたりと云。

#### 天台宗務支所の震災大法会の概況〔明治25年10月10日 第二二七号〕

一昨八日、当市桶屋町福泉寺（戸隠山）に於て、本県下同宗各寺院参集し、全宗五門跡の一なる京都大原三千院門跡梅谷大僧正を聘して震災死亡者の一周忌大法会を修せられたり。全日は門前に大仏旗を翻し、本堂に施餓鬼棚を架設け、大塔婆を樹て、壇上には諸種の供物を献せり。参詣者は午後一時より続々参集し大僧正の着寺を待受たり。全僧正には全日西京発第二列車に割錫せられ、午後二時笹島に着せられしにより、全処へは本県全宗教務取締役中村勝契氏及全宗の主事四名、議員及信徒等は出迎をなし、新柳町多仁家を旅館に充て小憩の上福泉寺へ着せられたり。全寺にては参集寺院は正服にて門前に駢列して大僧正を迎られ、夫より

鳴鐘一会にて伶人音楽を始む。唳々たる奏樂の間に一同本堂に班列し、次到大導師門跡上殿せられ、第一讃頭妙見寺大律師、四智讃の偈を朗声に唱へらる。次に一同唱和第三礼、着坐讃（此間奏樂）第三大導師表白文を朗読せらる。第四錫杖玉泉院中律師錫杖偈を奏し大衆同和。第五大音三礼、第六四方念仏散花唱頌（此間奏樂）、第七法華經安樂行品誦經行道（此間奏樂）、第八四方念仏散花了て奏樂の間に一同散堂せられ、夫より伊藤円成氏の演説あり。社員水野も本社を代表し参詣し、簡短なる一席の法話を為したり。全日参会せられたる全宗寺院には観福寺、高田寺、教王院、蜜藏院、日輪寺、竜泉寺、円光寺、願王寺、竜徳寺、石山寺、福泉寺、谷ノ坊、法王寺、長円寺、大光寺長養寺円教寺其の他徒弟十余名等なりしか全日は降雨なるにも掲らす盛会なりき、且つ又愛知仏教会を代表し社員河村文六か参詣したり。右法式終りて参詣者一同へ供物も配与せられたり。而て取締蜜藏院、円教寺、長養寺等は最も幹旋せられたり。因に記す本県全宗寺院には同大僧正を請し、東春日井郡雛五村蜜藏院に於て声明法の研究を七日間修せらるゝと云ふ。

#### 私立曹洞教会（明治25年10月10日 第二二七号）

私立曹洞教会は其の第三教場として、当市七小町普蔵寺に於て去月廿九日開場式を挙行し示後、毎月七日午後二時修証義を講話せらる事にて、既に過る七日に全宗学林教授早川見竜師及社員水野が出席し、第一節第二節を兩人にて通俗の平易に講和せられたり

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（三）

しか、全日は参聴者も多く、将来は大に發達すべき見込なりと云ふ。

#### 楽運寺の梵鐘（明治25年10月10日 第二二七号）

当市樋ノ口町高橋常保居士より全市前津小林町楽運寺へ寄付せられたる梵鐘は実に立派なるものにて、其形は有名なる播州尾上の鐘と能く類似し、寺門の智証大師が唐よりの持來品を模造せられたる物の由にて、梵文六字名号（桜井敬徳律師書）及経文（町田久成入道書）等ありて、日本には希有の品なりと云ふ。右は過般大津三井寺にて新鑄せられ、既に高橋氏へ到着し居るを、明る十一日正午十二時同氏方より楽運寺へ曳き取らるゝ由。定めて盛なる事ならん。

#### 功德院の承陽諱（明治25年10月17日 第二二八号）

明十八日、同会及び震災死亡者の法要を裏門前町の同院にて行はるゝ由。

#### 熱田支部の演説（明治25年10月17日 第二二八号）

愛知仏教会熱田支部にては、来る廿一日神戸町円福寺にて午後七時より仏教演説開会に付、弁士は本部より派出する筈。

#### 上宿支部会の演説（明治25年10月17日 第二二八号）

全会は例月の定期演説として、昨夜興西寺に於て開会せられたり

しか、本会よりは太田慈幹、佐治大謙の二氏出席せられたり。参聴者多く相易らす盛会なりき。

#### 私立曹洞教会〔明治25年10月17日 第二二八号〕

当市全宗中学林職員山田祖学、佐治大謙、早川見竜、社員水野等の組織せし全会は、当市内各所に教場を設け、全宗の在家安心の所依ともせる修証義を極く平易通俗的に講和せらるゝことにて、既に実地開設に至りしは、第二教場白川町大運寺（毎月十日午後二時より）第三教場七小町普蔵寺（毎月七日午後二時より）第四教場宮出町永安寺（毎月十四日午後二時より）第五教場古渡町伝昌寺（毎月廿七日午後二時より）等にて、尚ほ市内中央部及び西北部に拡張せらる筈なりと云ふ。

#### 金剛經千部会〔明治25年10月17日 第二二八号〕

当市松山町安斉院にては、来る廿六日より廿八日迄全法会を修して震災死亡者の追吊会を営み、又廿八日午後一時より宗祖承陽大師の御忌法会を営み、右三日とも説教を執行せらるゝと云ふ。

#### 中立党組織〔明治25年10月17日 第二二八号〕

目下曹洞宗は分離非分離の両党頻りに其の党勢を拡張するに汲々し、又各処に両党とも公会演説を開き舌戦、腕力殆んど全宗内は阿修羅戦鬪場裡の如くなるが、全宗水野曉山、水谷大聲、中島禅友、坂井祖仙等の諸氏が発起となり、愈来る廿四日裏門前町建昌

寺に於て会議を催さるゝと云ふ。

#### 愛知仏教少年教会の発会式〔明治25年10月17日 第二二八号〕

昨十六日午前九時より菅原町浄教寺に於て同会の発会式を挙行せられ、引き続太田、広間、水野諸氏の祝詞及大谷派一等学師吉谷覺寿師の法話等あり。又鶴飼氏の幻灯等ありしが、同会の主意の概略は左の如し。

本会の主旨は畏くも 勅語の聖旨に基き、仏陀の金言により兒童の徳義を奨励し以て、愛国護法の継続を養育せんとす。△毎月第三の日曜日に、少年に適當なる講和を開演し、會員に菓子を授与する者とす。但時間は午前八時よりとす。△十五才未満の者を以て正會員とす。△本会に入らんとする者は書式に準じたる書面を以て役員へ申込、會員証を乞ふべし等の数項なり。

#### 江湖会と授戒会〔明治25年10月24日 第二二九号〕

当市前津町長松院に於ては、来る十一月二日より九旬間江湖会を、全十七日より廿三日まで授戒会を兼ね、震災死亡者一周年の追悼会をも営まるゝ由。

#### 真言宗中学林震災追福法会〔明治25年10月24日 第二二九号〕

去る廿一日、当市長久寺町なる真言宗中学林に於て上級生見田政照、加賀得門の二氏発起となり、昨秋の震災に非命の死を遂げた各霊を慰めん為め、職員生徒総出頭にて午前八時より理趣三昧

大法会を厳修して、監督鈴木快秀大僧都の吊詞、教師岩崎弁友師、助教野口政忍師及見田政照、中尾真鳴等五六生徒の演説あり。右全く了て、随喜者一同へ生徒より供奉したる饅頭数点宛配与し散会したるは、正午十二時なりき。

#### 大須観音堂の土砂法要〔明治25年10月24日 第二二九号〕

来る廿六日午前十時より震災死亡者の為め、土砂加持大法要を真言宗甲法務支所員が修せらるゝに付、一柳幾三郎氏が生花一對を献ぜられし由。又右の土砂を参詣者へ施与せらるゝと云ふ。

#### 臨濟宗の震災一周年大法会〔明治25年10月24日 第二二九号〕

本日の広告にある如く、来る廿八日午前十時より当市門前町総見寺に於て、市内全宗徳源寺始め各寺院総出頭にて震災一周忌の大法要を営み尋て説教をも開筵さるゝ筈なりと。又右法会の發起者は全寺檀徒の有志なりと云ふ。

#### 合同会例会〔明治25年10月24日 第二二九号〕

当市門前町総見寺内の合同会地蔵講にては、本日午後一時より全例会を開かるゝに付、中島郡国分村円光寺住職玉垣綱宗氏が説教を勤めらるゝ由。

#### 勇猛団の震災法要と幻灯会〔明治25年10月24日 第二二九号〕

当市本重町なる仏教勇猛団本部に於ては、来る廿八日各宗僧侶を

請し震災一周忌追吊法要を修し、夜分には鵜飼祖箴氏を聘し幻灯会を催さるゝよし。

#### 浄土宗の追吊法要〔明治25年10月24日 第二二九号〕

昨廿三日、当市門前町極楽寺に於て同宗派内僧侶の催にて震災一周忌の法要を営まれたり。

#### 日蓮宗の震災死者法会〔明治25年10月24日 第二二九号〕

当市日蓮宗首題寺に於て、来る廿八日全宗の檀林学生諸氏が發起となり、震災死亡者の一周忌大法会を修し、続て服部日題師の説教を挙行せらるゝと云ふ。

#### 白鳥山の法会〔明治25年10月24日 第二二九号〕

熱田町白鳥山法持寺にては、来る廿六日震災死亡者の大法会を催さるゝ由にて、社員水野も出席法話を為す筈なり。

#### 奉王館設立と講話〔明治25年10月24日 第二二九号〕

日蓮宗大学林得業生にして、以前久しく伊勢国土井の門に遊ばれし富永周喜氏は、此頃当市南小川町に題号の如き学館を新に設け、毎日午後三時より十八史略、文章軌範其他学生の依頼に応じ専ら漢籍を教授し、夜分には仏教科として天台四教義の講義を開かるゝ由。

**震災一周忌法要**〔明治25年10月24日 第二一九号〕

今廿四日、下茶屋町黄檗宗東輪寺に於て、同宗寺院十四ヶ寺聯合し震災死亡者一周忌追吊大法要を営み併せて演説会をも開かる、由にて、其弁士は同宗前管長林道永師及び法雨協會の萩倉耕造氏等なりと、右に付町内有志より当日参詣人一同へ献餅及饅頭等施与せらるゝ由。

**建碑式法語**〔明治25年10月24日 第二一九号〕

神谷大周師は過る十六日、熱田新尾頭町雲心寺に於て挙行せられたりし紡績会社建碑式の法会に臨み、同師が唱導せられたる法語を得たれば、左に

仰見浮屠祭怨靈	拈香一株滿天馨
無遮施食建高幢	有志捨資立巨碑
道俗同心來人會	兒孫叉手吊幽冥
存腸死何限恨	却結稱讚淨土經

**広告**〔明治25年10月24日 第二一九号〕

十月三十日午後正一時より、当本部に於て

本会第一周年紀念大会

説教 十月三十日午前七時より 全  
廿一日午前七時、午後二時

牧野神爽師出席

名古屋市押切町養照寺内

## 真宗講話会本部

**広告**〔明治25年10月24日 第二一九号〕

本月廿七日午後三時

震災死亡者一周忌追吊会

名古屋市皆戸町長徳寺ニ於テ

会主市内大谷派寺院中

**広告**〔明治25年10月24日 第二一九号〕

本月廿五日午前十一時より門前町西別院ニテ

震災追吊法会 並 演説説教  
水害

教師、楠原淳誓、弁士、児門賢象、萩倉耕造  
施主、下長者町芋小

**白鳥山震災法会概況**〔明治25年10月30日 第二三〇号〕

白鳥山震災法会は予期の如く、去る廿六日挙行せられたり。全日は門前に大仏旗を交叉し、又数百の球灯を山形に懸列し、中庭に大塔婆を樹て施餓鬼棚を架設し、五色小幡を翻し午後二時法会となり、付近寺院住職僧侶三十余名及大導師白鳥鼎三老師本堂に班列して施餓鬼会を修し、続て社員水野が一席の法話を為して閉会となりしか、全日は流石に広き本堂は内外立錫の地なく、殊に此の多数参詣者へ茶津盛を配与せられたることにて非常の雑沓を極

めしか、法会は前後共最と殊勝に見受られたり。

### 大光院震災法会概況〔明治25年10月30日 第一三〇号〕

大光院震災法会は去る廿八日午後一時より、予期の如く曹洞宗南部寺院廿余ヶ寺か協同して修行せられたりしか、全日は門前に仏旗を翻し施餓鬼棚を架し、全二時より修行せられたりしか参詣者も多く最も盛会なりき。全日は愛知育児院の育児一同及有隣学校の生徒等も参詣し、一同へ供物を配与せられたり。

### 仏教講義会〔明治25年10月30日 第一三〇号〕

去る廿九日より本誌外典講義寄稿者歌川観月居士は、高岳町一丁目九十三番地なる自宅に於て仏教講義会を設立し、内外二典に區別して天台学及び羅馬教回々教等の教理を講義する由。居士は元來天台宗にありたる時修られたる經典に就き、順次に講する由なり。又外典は特に其宗に加盟して修めたるものなれば、聖書上一見したるとは天地の相違せる教理もあるべし。会員も二十名以上の申込ありたりと増々盛んならんことを望む。

### 総見寺震災追弔会模様〔明治25年10月30日 第一三〇号〕

予告せし当市門前町総見寺内にて、去る廿八日全寺信徒有志者の発企にて行はれし同法会の概況は、先門内外に仏旗及数旒の吹拔を翻し、堂前に施餓鬼棚を構へ其縦横に四十九院の旗を列ね木塔を建て、又堂内の莊嚴は格別美を尽し、時方に一時、五十余名の清

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（三）

衆出頭住職酒井恵遂師の導師にて最と嚴肅なる法式を挙行され、尚法会了て玉垣綱宗氏の説教ありしが、全日は雨降にも拘らず非常なる群参にて全四時頃散会の際虔備の餅饅頭等を参詣一同へ施与せられしと。

### 震災法要彙報〔明治25年10月30日 第一三〇号〕

既に前号に広告せられし各寺院の同法要は孰れも盛況なりしが、就中当市洲崎橋金城館の同会は館主が施主となり、愛知仏教会が其の周旋を為せしに、当日の来会衆は各宗を合して百二十八名の僧侶にて浄土及び真宗は合併して阿弥陀經を、禪の各派は觀音經を、又真言も別立して同經を都合三坐にて誦經後、一同へ清齋及び折詰を饗せられしが、参詣者へも菓子などを配与せられ、最と丁寧なる法要なりき。又当日一柳葬具店より奉納花ありし。

### 勇猛団の同法要〔明治25年10月30日 第一三〇号〕

勇猛団の同法要も本重町なる同本部にて挙行せられ、社員も招きに依じて参詣せしに、是亦眠光院主を始め数名の真宗僧侶を招し大經の誦誦あり。終て清齋を饗せられ、夜に入て鵜飼氏の幻灯あり。大田元遵氏の演説ありて中々の盛会にてありき。

### 高田派至誠院の法要〔明治25年10月30日 第一三〇号〕

当市東ノ町なる同院にては、去る廿八日震災一周忌の法要を営まれしか、同寺へも一柳葬具店より生花の奉納あり。

**徳源寺の僧衆招魂場に於て読経すべし**〔明治25年11月4日号外〕

来る七日は午前九時より例年の如く、東西本願寺別院より招魂場に於て読経せらるゝよしなるか、本年は更に当市出来町の徳源寺の僧堂より同寺方丈か導師となり一百余名にて、右の読経済み次第大法要を行はんと。過日当市末広町の井上重兵衛、神楽町の河村武七氏等十一名か連署の上申出られしを以て、直ちに採用相成りしを以て愈々其の手順を調へ得らるゝ由。

**宗教学校生も読経すべし**〔明治25年11月4日号外〕

愛知仏教会の申出により市内各宗の宗教学校即ち大谷派普通学校、万松寺内曹洞宗中学林、浄土宗中学林、真言宗中学林等の学生一同は、来る六日正午より招魂場にて各宗毎に読経せらるゝ由。因に記す。若し雨天なりせば、夫々各学校に於て校毎に奉仕すべしと云。

**私立曹洞教会**〔明治25年11月7日 第一三二号〕

私立曹洞教会は、来る十一日七小町普蔵寺に於て定期法語を催さるゝ由なるか、山田祖学氏か出席せる筈なりと云ふ。

**真宗講話会震災死亡者の追吊会**〔明治25年11月7日 第一三二号〕

真宗講話会震災死亡者の追吊会は予告の通り、去る三十一日午後一時より押切町養照寺内の同本部に於て営まれしが、同日は牧野神爽師を始め同宗の僧侶数十名にて三経を誦誦し、終て富田本部

長は追吊文を朗読し、次に牧野師の演説及び法話等あり。終て献餅若干を参詣者一同へ配与されしか、当日は死亡者の遺族も多く参詣せられ、最盛大なる法要なりしか、当日の費用一切は押切町の富田領助氏か寄付せられしと云。

**私立曹洞教会**〔明治25年11月14日 第一三三号〕

私立曹洞教会は去十一日、第三教場普蔵寺へ山田祖学師が出席し、亦第二教場大雲寺へは早川見竜、佐治大謙の二師が出席し、亦第四教場永安寺へは十四日、佐治大謙師及社員水野か出席し、各処共修証義を講述せられたといふ。

**大光院の晋山式**〔明治25年11月14日 第一三三号〕

去る十日挙行せられたる当市大光院の後住竜桑巖氏、晋山式は例により五所の法話了て上堂（此の中には天皇陛下の万歳を祝する儀式あり）されしが、白槌師は万松寺方丈にて（本寺代理）、其の他総見寺、極楽寺、大須、七ツ寺、性高院、阿弥陀寺を始め寺院僧侶一百余名、信徒二三百名にて最と盛大なりしが、当日は社員一同招きに応じて参拝せり。

**真宗講話会創立記念会**〔明治25年11月14日 第一三三二号〕

去月三十日、当市押切の養照寺内に挙行せられし同会は、当日同寺前に浅井佐吉氏より寄せられし大緑門に菊花を挿入し、六根色と八藤を染めたる彩旗を交叉したる者を立て、門には佐藤甚蔵氏



の寄せられし浜縮緬の黄白二大旗に祝真宗講話会一周年、牧野神  
 爽師万歳と染め抜きたる者を交へ、門内には紅灯数千あり。千秋  
 流の生花あり。武田鶴次郎、中島喜兵衛、松本常次郎、渡辺松次  
 郎等の諸氏が寄付の旗旗を立て、書院の床には加藤彦右衛門、同  
 善八、佐藤半兵衛、水谷佐助、川瀬代助、伊藤弥七、富田領助の  
 七氏より牧野氏に贈る所の彰、牧野神爽師伝導之功と銘せる銀杯  
 及び花瓶並に歌文を陳列し、正午より近県支部幹事長、地方幹  
 事、特別賛助員は式務員の警鐘と共に式場に着席し、次到大和衆  
 の合奏にて講師及僧侶着席、次に富田幹事長は式壇に上り一周年  
 の辞と題する一説を述べ、創業以来の沿革を口陳され、次て関西  
 の幹事総代として大阪の岩田常右衛門氏より来電の祝報を読み、  
 同会万歳を唱ふ。次に奏樂、次に馬場広為、富田順次郎、小原与  
 三郎、荒木武兵衛氏等の祝文、次に奏樂、次に一柳智成氏の演  
 説、次に奏樂と共に牧野氏は凡そ何事に由らず興すは易く、守る  
 は難し。今本会は爰に一周年となりたるは能くお守りになりたる  
 なり。爾るに諸国に数千名の兄弟の出来たるは、当本部の幹事諸  
 氏の御尽力の表れと感謝に堪へず。盆踊りの一回りの如く茲迄お  
 守りになりたる通りに百千年となるべきを希ふ。今般の盛挙を喜  
 び、益々御尽力を祈る云々の賀辞を述べられて式壇を下らる。因  
 て第三点鐘にて式終り、次て講話会を開き、第一席一柳智成氏は  
 人と題する説、次に牧野師が得意の弁を振つて二諦相依と題する  
 講話ありて場内静肅、和氣洋洋の中に首尾能く其式を終へられ、  
 尚富田氏の祝詞ありしが今略す。

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教(三)

#### 慈悲会の演説〔明治25年11月14日 第二三三号〕

当市古郷町敬円寺に於て、今回西有穆山師が同会の会長を承諾せ  
 られしを幸とし、本月二十二、三日頃一大仏教演説会を開き、同  
 時に役員をも改撰し、又当日は貧困者へ施米等の挙もある由に  
 て、其弁士は近藤疎賢、高岡徹宗外数名なりと云ふ。

#### 私立曹洞教会の法話〔明治25年11月14日 第二三三号〕

曹洞宗の有志諸氏が設立されし同会は、逐々盛大に赴くべきを以  
 て、来る十四日は当市宮出町永安寺に於て開会せられ、尚通仏教  
 の講話をも開かるゝと云。

#### 広告〔明治25年11月14日 第二三三号〕

江湖会 並 授戒 十一月十七日より廿三日迄震  
 災死亡者一周忌ノ為メ修行ス

名古屋市  
 上前津町 長松院

#### 神野金之助一手寄進の鐘楼〔明治25年11月28日 第二三四号〕

去る廿三日の号外を以て市内の読者に報導せし、当市鉄砲町の神  
 野金之助氏が今回真宗大派本山の鐘楼を一手にて寄進せらるゝに  
 付、其の工事の予算を聞くに左の如しと云。但し石垣を除きたる  
 ものなり。

合計 二万四千百十六円五錢九厘

内 訳

木材 一万四千四百八十五円四十八銭  
 大工彫物 九千八百円  
 鍛冶 二百五十二円九十銭  
 屋根 千三百十円九十三銭四厘  
 雑用 千二百六十六円七十四銭五厘

#### 教場の発会〔明治25年11月28日 第一三四号〕

昨日、当市古渡町伝昌寺に於て私立曹洞教会第五教場の発会を為し、中学林教授佐治大謙氏及水野も出席し修証義を講述したりと云ふ。

#### 各宗取締会議所事務取扱〔明治25年11月28日 第一三四号〕

去る廿四日の号外に於て、同会議所は従来当市七ツ寺にありしか、今回都合により門前町臨済宗教務所総見寺内へ移されたる趣きは記載し置きしか、尚其の事務は同寺住職酒井恵遂氏か専ら取扱はるゝ筈なりと云ふ。

#### 愛知育児院の仮新築開院式〔明治25年11月28日 第一三四号〕

当市矢場町白林寺境内に新築せし愛知育児院の開院式を一昨日執行せしが、当日の来賓には副院長志水市長、同助役、各宗取締及諸寺院、市参事、会員銀行会社員、諸新聞記者及紳士会員等凡そ百余名にて、午後一時一同着席するや副院長の祝辞朗読、次に各務恵美氏が同院創立以来の経歴を述べられ、白井菊也、富田耕治

氏の演説あり。尋て本社の水野は育児引連れ、総方に代て来賓の厚意を謝し了て酒肴の饗応ありたり。尚当日育児三名を他へ養子女に遣はされたり。

#### 白鳥鼎三老師の略歴〔明治25年12月5日 第一三五号〕

別項記載の如く、同師は去る廿八日遷化せられ、昨日其の葬送を営まれしが、今師の履歴を得たれば左に掲ぐ。因に左に掲ぐる師の肖像は、過る明治十三年頃全国より勅任官及ぶ教正以上の撮影を宮内省より召させられし際に撮影せられし者を直写したる者にして、此の外には師が写影等はなき由に聞く。又其の師が履歴は左の如し。

師は□め幼にして、当市万松寺黄泉老師に就きて得度式を受け、年十有六にして山城国宇治郷興聖寺磨磚和尚の会下に参禅せられし数年後、香積の風外和尚、興聖の四天和尚の会下に修学せらるゝ多年、大法を白鳥の大潜和尚の室に入て嗣承し、後ち六師の観音寺、当市の福寿院、山碕の黄竜寺に住職し、後ち白鳥山法持寺に住せらる多年、明治二年永平寺西堂に任せられ、躬ら雲納數十箇を卒て祖廟に奉事し、全明治五年大本山の執事を命せられ、全山の諸規を釐革し、全年秋教部省より大講義を拝命し、明治六年当時各宗合併の大教院より巡教師を命せられ静岡、三重、愛知、岐阜の四県下を巡回せられ、明治十二年権少教正に補せられ、全十三年少教正に進み、全十六年春権中教正に任せられ、之より前全四、十五年より曾て廃絶せられたる遠州秋葉寺再興に尽

力せられ、遂に其の基を開かれたり。詳細の履歴は次号に報すべきなり。

### 愛知仏教会の帝国軍艦千鳥号の追悼会〔明治25年12月5日 第一三五号〕

一三五号

来る十三日を以て、同会はその本部なる大光院に於て同艦乗組員死者の為に一の追悼会を行はるゝ由。

### 私立曹洞教会〔明治25年12月5日 第一三五号〕

私立曹洞教会は、来る七日七小町普蔵寺の第三教場に於て、午後二時より佐治大謙氏が出席せらるゝ筈、又第六教場は裏門前町宝泉院に開場し、全八日午後二時より早川見竜、社員水野が出席する筈なりといふ。

### 鼎三老師入寂す〔明治25年12月5日 第一三五号〕

師は曹洞宗中最も高齢にして、碩徳耆宿の名ある事は晨に世人の知れる所なるが、去る廿八日溘焉長逝せられたる。大略を記さば、師は元来強健の性にして、老後尚ほ隱宅に在て日々仏典祖録を後進に授くるを以て日課とせられし程なるが、過る廿三日より微恙に罹られしも、依然僧俗を集めて伝光録を講じ怠り玉ふ気色も見へざりしに、廿七日の暁に至り、侍僧は師の老苦を察し、例により早朝より来集する所の聴講者に向つて、当日の講義は休み呉れと断りしを師は病床に在て之れを聞き、折角来集したる者な

れは病床にても講ずべかりしに、ソハ気の毒なる事を致したりと迄語られしに、翌日午前十時に至り、静然端座して従容眠れるが如く寂せられしは法臘八十六年にてありき、最も師が病症は格別烈しき程には非ざれども、病名は肺炎にて、遺骸は翌日、白鳥に送り、昨日同寺に於て左の如く送葬されたり。

### 白鳥山の葬儀〔明治25年12月5日 第一三五号〕

昨日熱田町白鳥山に於て執行せられたる鼎三老師の葬儀は、全日午後一時より挙行せられしに、導師には大本山永平寺貫主森田悟由禪師、奠茶師肥前国前皓台寺忍海師、奠湯師万松寺円之師、起龕師山城国興聖寺石梁師、鎖龕師大光院桑巖師、移龕師前黄竜魯中師、掛真師前正法閑居師の七導師にて、先つ同山書院に於て鎖龕誦経、起龕誦経ありて、夫より列を整へ玄関より出て中庭を迂回する三匝、全所の中央に庇屋を設け真龕を安置し、各導師は本堂の正面に曲録を列ねて南面せられ、其の西には全宗各寺院の会葬者及各宗寺院列席し、其の東には親戚居士、信者等列席し、靈龕の南には北面して老師の法嗣、随徒、僧衆班立し、而して念誦、十仏名、各導師の法語、楊巖行道、回向等、了て全山の墓地に埋葬せられたり。全日の会葬者には全宗宗務支局役員、中学林職員始め寺院二百余ヶ寺、雲納百余名、居士には控訴院判事村地正治、檜崎潤造氏始め讃井逸三氏等、其他の参詣者は最も多く内外立錫の地なき程なり名古屋市、熱田町の豪商紳士、県、市、町会の議員、一般信者等無慮五百余名と見受たり。亦同葬儀は文政

年間万松寺に於て執行せられたる珍牛大和尚の葬儀の古式に準し、靈龕は二重八角形にして上に鳳凰の翼を張るあり。列の先登には花籠一對、高張四対、仏名幡白幡多四流、赤幡四流、灯籠一對、生花四対、其の他宗規に準したる行列にて頗る壯觀なる儀式なりて、当日真牌は法嗣天珠方丈、法脈は全冷生方丈、宝蓋は確伝方丈にて、令嗣江崎接航氏は絶海の孤島なる対馬にありて葬儀に参せられざりしは全氏の為遺憾ならん。因に記す、鼎三老師は多年全宗の後進を薰陶せられしにより、全師の門下より出で一方の法將たりし人物は故福山顯高、上杉独歩、新富即心、織田法靈、渡辺実雄、西野石梁、省己逸外の諸氏等枚挙に遑あらず。左れば師が生前死後に同宗の為に一大法益を与へられしは、又偉大なりと云ふべし。本社は殊に此の法將の為に肖像及び略歴を掲げて、聊か報恩謝徳の一端に供す。

#### 広告〔明治25年12月5日 第一三五号〕

昨日ハ御遠路之処態々御会葬被下候段、以紙上厚ク御礼申上候

熱田 白鳥 山執事

#### 報告〔明治25年12月12日 第一三六号〕

愛知仏教会報告

明十三日門前町 千島艦沈没者追吊会 是各宗 大法要に各寺院方は大光院に於ける 合同の 進

ん 御随喜 あらん事を希望す。又本会会員は午 仏教演説 開会で 後一時より御参詣あらん事を續て 此の段謹告仕候也

愛知仏教会本部

#### 千島沈没員の追吊会〔明治25年12月12日 第一三六号〕

明十三日、当市大光院に於て愛知仏教会の催しにて各宗寺院方へ出席を依頼し、午後一時より大法要を行はるゝ由に付、同日一柳葬具店より生花一對を寄付せられしが、尚引き続き仏教演説を開会すべしと云。

#### 支部会演説〔明治25年12月12日 第一三六号〕

愛知仏教会上宿支部にては、去六日午後六時より全所興西寺にて定期演説を催し、弁士には社員広間隆円、水野道秀二名出席の筈なり。

#### 故鼎三老師初七日忌〔明治25年12月12日 第一三六号〕

全法会は去る八日、熱田町白鳥山法持寺に於て執行せられたり。今其の概況を記さは、全日は門前及本堂、玄関の前面に高張を列ね、紫幕を張り回し、本堂の正面に真牌を安置し諸種の供物を備へ、大塔婆には当山廿九世秋葉中興鼎三即一大和尚禪師と認たるを建て、大導師には永平寺貫主代理として東京出張所執事麻蔭古溪師にて、法式は入堂三拝、湯食、菓饗、焼香、茶、中揖、法

語、出班、大衆三拜、楞嚴行道、摩訶梵、回向等にて、参席寺院には大光院、前皓台寺、黄竜寺、円通寺始め熱田町名古屋市の寺院及老師旧随の寺院は遠近を論せず参会せられ、無慮百廿余ヶ寺と見受たり。又在家信者には熱田町会の議員始め名古屋市より吹原九郎三郎、長谷川太兵衛氏始め百七十余名と見受けられ、静肅にして殊勝なる法会にてありき。全日麻蒔舌溪師の唱へられし法語は、

再来高祖拳清規 拙嘆弊盛兼法囊

去劫世間精算術 見三見一見随宜

露

蘆花白鳥真難認一搏驚人呼続涯

因に記す。麻蒔師も曾て老師の会下に在て参禅せられ、又説教家として有名なる小寺黙音師も老師に参随せられし由にて、師は葬儀より引続き全山に在て、最も斡旋せられしと云ふ。又老師の令嗣にて越本山執事なる鷹林冷生師は法会后直ちに大本山へ帰錫せらるゝ筈なりと云。

### 橋本一濟氏の葬儀〔明治25年12月12日 第一三六号〕

同氏は生前当市大津町の光円寺を手次同様に崇敬し、同氏が亡父の法要等も同寺にて行はれし縁あるを以て、昨日の葬儀は同寺に於て三導師にて吊はれしが、右は故横井病院長以来の盛儀にて会葬者も四百名余と見受けられたり。

〔能仁新報〕よりみた名古屋の仏教（三）

### 私立曹洞教会〔明治25年12月12日 第一三六号〕

私立曹洞教会は十四日、宮出町永安寺第四教場に於て午後二時より、山田祖学師出席講筵せらるゝと云ふ。

### 興教大師会と冬期報恩講〔明治25年12月12日 第一三六号〕

当市真言宗長久寺内なる中学林にては、去る十二日午後一時より森恵範、見田政照の二氏が發起となり、職員の見助により派祖興教大師の七百五十回忌を行はれしに付、大導師には服部権少僧正にて、随喜は法務所員及び近郷の寺院にて、参詣者へは供物を配与し、随喜一同へは学林生徒より清齋を饗せられし由。因に同日より、同常法談林に於て例年の通り冬期報恩講論議を執行されしが、論議は仏果開合及び絵本法然の二題にて、化主は服部権少僧正にて、講師は岩崎弁友、副講師は野口政忍、取締は稲本大真、浅井明運、青山照善の三氏にて、所化は八十余人にて、来る廿五日は結願なりと云。

### 報告〔明治25年12月19日 第一三七号〕

#### 愛知仏教会報告

去る十三日、本会に於て行ひたる千島艦沈没者追吊会に随喜せられたる寺院の芳名左の如し。

本立寺	大光寺	極楽寺
高願寺	永林寺	栄国寺
聚福院	照運寺	誓願寺

各務恵美 大智院 西光院  
 覚王院 禅芳寺 安清院  
 法応寺 仙松院 永昌院  
 東海寺 早川見竜 水野道秀  
 大光院 金仙寺 性光院  
 海福寺 阿弥陀寺 解脱寺  
 清安寺 梅香院 光寿院  
 養静院 聖運寺 光真寺  
 総見寺 光明院 西蓮寺  
 大林寺 大運寺 佐々木祐継  
 禅隆寺 金剛寺 宝泉寺  
 功德院 陽春院 万年寺  
 竜雲寺 竹内靈胤 玄宗寺

外各寺より役僧三十二名

従来本会に於て挙行せし法要等に御随喜の諸寺院中、往々尊名伺ひ漏の分有之。甚だ遺憾に候、右は永く御尊名を本会に保存すべき筈に付、以来は必ず御随喜の際は受付に迄御尊名御通知あらん事を希望す。

#### 愛知仏教会本部

#### 千島艦追吊法会〔明治25年12月19日 第一三七号〕

愛知仏教会の発起に係る千島艦乗組死亡者の追吊法会を予期の如く、去る十三日大光院に於て施行せしが、全法会は午後一時より

始まり、第一席は浄土宗西山派と真宗阿弥陀経、第二席は真言宗、天台宗の普門品、第三席は曹洞宗、臨済宗の普門品行道式にて、何れも殊勝なる誦経なりし。尚参詣者へは供物を配与されたりと云ふ。

#### 故笠間竜跳師の一周忌〔明治25年12月19日 第一三七号〕

故笠間竜跳師の一周忌は、本日午前十時大光院にて執行せらる由にて、大導師には目下来名中なるし江崎接航師か勤めらるゝ筈なりと云ふ。

#### 安用寺住職定まる〔明治25年12月19日 第一三七号〕

当市門前町曹洞宗安用寺は、曾て前住職は犯罪の廉ありて罷免せられ、久しく無住中なりしか、去る十三日全宗の宗務局より羽柴達玄氏の師に当る前竜谷寺住職某（七十余年）師は、特撰を以て命ぜられしと云ふ。

#### 故竜跳師法会の概況〔明治25年12月26日 第一三八号〕

曾て愛知仏教会の講師として屢々本社へ講義を寄せられし笠間竜跳師の一周年法会は、去る十九日大光院に於て執行せらるゝ事は前号に報導せしか、全日は本社員は何れも法会に参席致したれば、左に其の概況を記す。全日は午前十一時より来会の寺院、僧侶及帰依の居士信徒等は本堂に参列し、正面の壇上には竜跳師の画像及眞牌を安置し、供物を備へ大塔婆を樹て殿鐘三会にて僧衆

一同上殿、法式は献香、湯食、菓饌、茶、法語、出班焼香、宣疏、寿量品行道、回向了て僧俗来会者一同焼香にて前後最も殊勝なる法会なりき。全日大導師江崎接航師の唱られし法語を得たれは左に、

風雲際会怒雷起 宗説般々難掩耳

大地震来竜跼跳 大家休屏野塘水 咄

江国春風吹不起 鷗鷗鳴在深花裏

### 私立曹洞教会〔明治25年12月26日 第一三八号〕

第五教場即ち古渡町伝昌寺に於ては、来る廿七日午後二時より全宗中学林教授早川見竜氏出席にて修証義を講演せらる由。

### 合同会の例会〔明治25年12月26日 第一三八号〕

当市門前町総見寺内の同会は、一昨日午後一時より開会し、前管長無字禪師の代理臨場あり。且つ中島郡円光寺住職玉垣綱宗氏の説教ありて、近月に珍らしき盛会なりし由。